

調査データのトレーサビリティの確認結果

参考資料

コア観察カードの確認結果

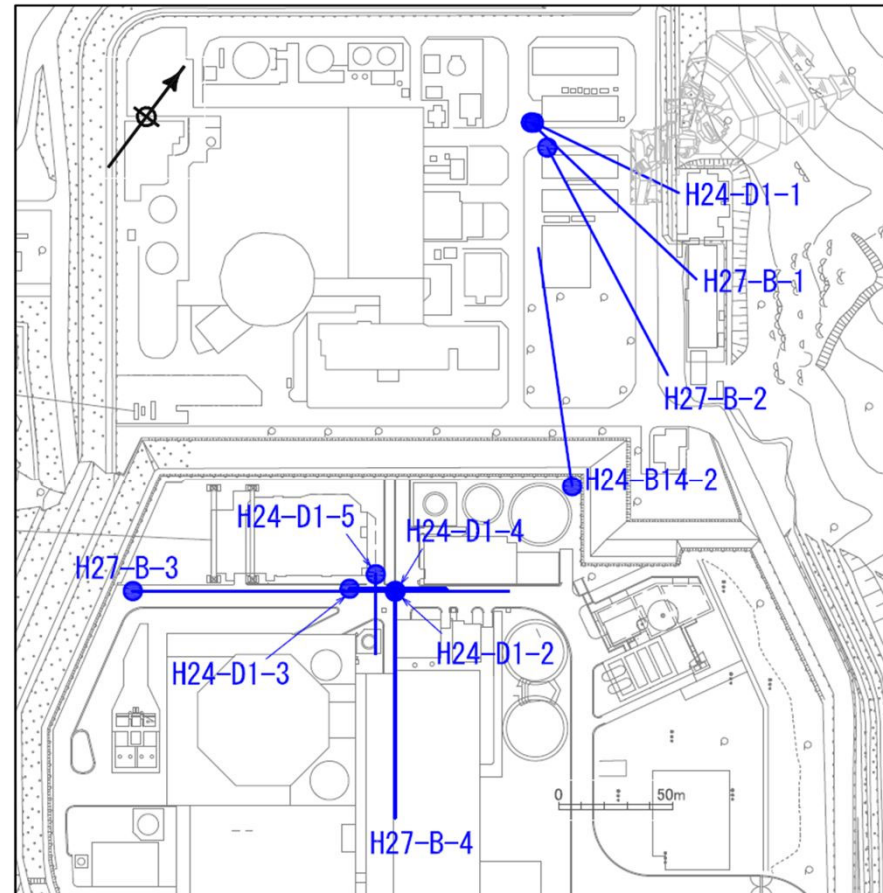
令和4年11月25日

日本原子力発電株式会社

余白

目次

ボーリング孔名	頁
H24-D1-1	3-9-7
H27-B-1	3-9-37
H27-B-2	3-9-65
H24-B14-2	3-9-101
H24-D1-3	3-9-135
H24-D1-2	3-9-153
H24-D1-4	3-9-163
H27-B-3	3-9-185
H27-B-4	3-9-219
H24-D1-5	3-9-245



ボーリング調査位置図

- 本資料は、資料3-6と資料3-7から記事に関する情報を転記し、参考資料としてとりまとめた資料である。
- 資料転記元との関係について、次頁で説明する。

資料3-6: コア観察カードの確認結果(1)

資料3-7: コア観察カードの確認結果(2)

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

記事		適正化すべき記事内容	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度
0.00	4.33	0.00	4.33
0.00	3.00	0.00	3.00
0.00	2.00	0.00	2.00
2.86	2.86	2.86	2.86
3.00	4.00	3.00	4.00
4.00	4.33	4.00	4.33
4.33	12.15	4.33	12.15
4.33	1.00	4.33	1.00
4.33	3.45	4.33	3.45
5.00	5.45	4.97	5.45
5.45	5.33	-	-
5.33	5.33	5.33	5.33
5.33	5.72	5.33	5.72
5.72	5.72	5.72	5.72
5.72	5.78	5.72	5.78
5.78	5.84	5.78	5.84
5.78	5.84	5.78	5.84

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-1)

記事		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度
0.00	4.33	0.00	4.33	0.00	4.33
0.00	3.00	0.00	3.00	-	-
0.00	2.00	0.00	2.00	-	-
2.86	2.86	2.86	2.86	2.86	2.86
3.00	4.00	3.00	4.00	-	-
4.00	4.33	4.00	4.33	-	-
4.33	12.15	4.33	12.15	4.33	12.15
4.33	1.00	4.33	1.00	4.33	1.00
4.33	3.45	4.33	3.45	4.33	3.45
5.00	5.45	4.97	5.45	4.97	5.45
5.45	5.33	-	-	5.45	5.33
5.33	5.33	5.33	5.33	5.33	5.33
5.33	5.72	5.33	5.72	5.33	5.72
5.72	5.72	5.72	5.72	5.72	5.72
5.72	5.78	5.72	5.78	5.72	5.78
5.78	5.84	5.78	5.84	5.78	5.84
5.78	5.84	5.78	5.84	5.78	5.84

転記

転記

転記

① コア観察カードの内容を転記している箇所

② コア観察カードの記事内容について、コア及びコア写真で確認した結果(追記・表現の統一等の箇所を赤字で表記)

③ ②の赤字で追記等をした理由

④ コア観察カードの確認結果から、柱状図へ記載する内容を選定した結果

⑤ 柱状図へ記載する記事を選定した理由

本資料	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事		記事	記事		記事
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		上端深度
1	0	4.33	均質な中砂で、 $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ の石英粒が点在する。 明確な境界は認められない。	均質な中砂で、 $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ の石英粒が点在する。 明確な境界は認められない。	・表現の統一(盛土 0.00) ・表記の修正(4.23⇒4.33)	0.00~4.33m: 盛土 中粒砂~砂礫からなり、下部ほど礫を多く含む。礫は径2~30mmの花崗斑岩や石英の硬質礫主体である。ルーズな部分が多い。	・盛土区間をまとめて書きした。		
2	0	3.00	均質な中砂で、 $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ の石英粒が点在する。 無構造、ルーズ。	均質な中砂で、 $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ の石英粒が点在する。 無構造、ルーズ。	・表現の統一及び適正化(m/m⇒mm) ・コアに合わせて、周囲と異なる状況であったため、堆積構成と構造、具合について追記した	-	・盛土区間をまとめて書きしたため、盛土区間内の細区分の記載は削除した		
3	1.70	2.00	$\phi 5 \sim 10\text{mm}$ (最大 $\phi 30\text{mm}$)のGp岩片を多く含む	-	-	-	・盛土区間をまとめて書きしたため、盛土区間内の細区分の記載は削除した		
4	2.86	2.86	コア中にビニールのひもが埋まる。埋戻し時に混入したと推定される。	コア中にビニールのひもが埋まる。埋戻し時に混入したと推定される。	・推定の記載は削除した	2.86m: ビニール紐を含む。	-		
5	3.00	4.00	$\phi 2 \sim 5\text{mm}$ (最大10mm)のGp岩片が混入する粗砂。やや締っている。	$\phi 2 \sim 5\text{mm}$ (最大10mm)のGp岩片が混入する粗砂。やや締っている。	・表現の適正化(m/m⇒mm)	-	・盛土区間をまとめて書きしたため、盛土区間内の細区分の記載は削除した		

⋮

余白

H24-D1-1

H24-D1-1 0.00~6.78m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
1	0	4.33	埋戻し土 0~3.00mまで中砂。3.00~4.00mまで粗砂。4.00~4.23mまで砂礫からなる。各土層境界は漸移的で明確な境界は認められない。	0.00	4.33	粘土 0.00~3.00mまで中砂。3.00~4.00mまで粗砂。4.00~4.33mまで砂礫からなる。各土層境界は漸移的で明確な境界は認められない。	・表裏の統一(粘土:0.00) ・順記の修正(4.23⇒4.33)	0.00	4.33	0.00~4.33m: 粘土 中粒砂~砂礫からなり、下部ほど礫を多く含む。礫は径2~30mmの花崗斑岩や石英の硬質礫主体である。ルーズな部分が多い。	・盛土区間をまとめ書きした
2	0	3.00	均質な中砂で、φ2~3mmの石英粒が点在する。	0.00	3.00	均質な中砂で、φ2~3mmの石英粒が点在する。 粗粒土、ルーズ。	・表裏の統一及び適正化(m/m⇒mm) ・コアに合わせて、周囲と異なる状況であるため、堆積構造と締まり具合について追記した	-	-	-	・盛土区間をまとめ書きしたため、盛土区間内の細区分の記事は削除した
3	1.70	2.00	φ5~10mm(最大φ30mm)のGp岩片を多く含む	-	-	-	-	-	-	-	・盛土区間をまとめ書きしたため、盛土区間内の細区分の記事は削除した
4	2.86	2.86	コア中にビニールのひもが埋まる。埋戻し時に混入したと推定される。	2.86	2.86	コア中にビニールのひもが埋まる。 埋戻し時に混入したと推定される。	・推定の記事は削除した	2.86	2.86	2.86m: ビニール紐を含む。	-
5	3.00	4.00	φ2~5mm(最大10mm)のGp岩片が混入する粗砂。やや締っている。	3.00	4.00	φ2~5mm(最大10mm)のGp岩片が混入する粗砂。やや締っている。	・表裏の適正化(m/m⇒mm)	-	-	-	・盛土区間をまとめ書きしたため、盛土区間内の細区分の記事は削除した
6	4.00	4.23	φ5~30mmGp硬質礫を含む。下位の第四系砂礫層との境界は不明瞭(両者が砂礫のため)	4.00	4.23	φ5~30mmGp硬質礫を含む。下位の第四系砂礫層との境界は不明瞭(両者が砂礫のため)	・コアと深度の記事が整合していないため下端深度を変更した(誤字と判断)	-	-	-	・盛土区間をまとめ書きしたため、盛土区間内の細区分の記事は削除した
7	4.33	12.10	3層で、砂礫層主体である。中砂~粗砂。最初にシルト~粘土層をはさむ。	4.33	12.15	3層で、砂礫層主体である。中砂~粗砂。最初にシルト~粘土層をはさむ。	・コアと深度の記事が整合していないため下端深度を変更した(誤字と判断) ・地層名は詳細であるため削除した ・表裏の適正化(括弧)	4.33	12.15	4.33~12.15m: 砂礫主体	・当該区間の主体となる地質のみ記載し、局所的な地質は下記に個別に示した
8	4.33	5.05	砂礫 φ2~5mm/m石英粒。φ5~80mmGpの歪円~五角礫を含む。硬質礫が殆んどを占める。基質はややルーズな中砂~粗砂。礫含有率30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片を含む。	4.33	4.97	砂礫 φ2~5mm石英粒。φ5~80mmGpの歪円~五角礫を含む。硬質礫が殆んどを占める。基質はややルーズな中砂~粗砂。礫含有率30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片を含む。	・4.97~5.00m間に泥材(粘土)を挟むため下端深度を変更した ・表裏の適正化(m/m⇒mm)	4.33	4.97	4.33~4.97m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径5~80mmの花崗斑岩の歪円~五角礫を含み、硬質礫が多い。基質はややルーズな中~粗粒砂。礫率30~40%。 4.75m、4.89mに長さ10~20mm、幅5mmの炭化物片を含む。	-
9	5.05	5.45	粗砂 φ1~3mm石英粒を多く含む。やや締っている。5.20mにφ10mmの半クサリGp礫を含む。	4.97	5.45	スライム(上からの腐植物と思われる) 4.97~5.00m間は泥材(灰黄色粘土)。5.00~5.45m間は粗粒砂からなる。φ1~3mm石英粒を多く含む。径1cm以下の黒色頁岩の礫を含む。ルーズ。5.20mにφ10mmの半クサリGp礫を含む。	・4.97~5.00m間は泥材であり、5.00~5.45m間は粘土中の黒色頁岩を多く含むため上からの腐植物と判断してスライムに変更した ・上位の粘土と同程度の硬さであるため締まり具合を変更した ・上位からの腐植物の特徴として頁岩礫の黒色頁岩について追記した	4.97	5.45	4.97~5.45m: スライム 灰黄色粘土からなる泥材と粗粒砂からなる。径10mm以下の黒色砂岩の礫を含む。ルーズである。	・スライムであることを示す内容のみ記載した
10	5.05	5.45	(地質名欄)砂	4.97	5.45	(地質名欄)コア未知	・記事欄の記事に合わせて変更した	4.97	5.45	(地質名欄)コア未知	-
11	5.45	6.33	礫 φ30~280mm(コア長)の硬質歪五角礫Gpからなる。半クサリ~クサリ礫は分布しない。	-	-	-	-	5.45	6.33	5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの硬質歪五角礫の花崗斑岩の歪角礫からなる。半クサリ~クサリ礫は分布しない。	-
12	6.33	6.59	砂礫 φ2~80mmGpの歪円~五角礫の硬質礫と中砂~粗砂のやや締った基質からなる。礫含有率は30%前後。殆どに未分解で炭化していない草片を含む。	6.33	6.59	砂礫 φ2~80mmGpの歪円~五角礫の硬質礫と中砂~粗砂のやや締った基質からなる。礫含有率は30%前後。所々に未分解で炭化していない草片を含む。	・表裏の適正化(所々)	6.33	6.59	6.33~6.59m: 砂礫 径2~80mmの花崗斑岩の歪円~五角礫の硬質礫と中~粗粒砂のやや締った基質からなる。礫率は30%前後。所々に未分解で炭化していない草片を含む。	-
13	6.59	6.72	シルト混り粗砂 有機質で、φ1~2mmの石英粒、長石粒、岩片を含んでいる。また、炭化物片や未分解の草片も含む。	6.59	6.72	シルト混り粗砂 有機質で、φ1~2mmの石英粒、長石粒、岩片を含んでいる。また、炭化物片や未分解の草片も含む。 褐色を呈する。やや締っている。	・表裏の適正化(混り) ・色調、締まり具合について追記した	6.59	6.72	6.59~6.72m: シルト混り粗砂 有機質で径1~2mmの石英、長石、岩片を含む。また、炭化物片や未分解の草片も含む。褐色を呈する。やや締っている。	-
14	6.59	6.72	(色調欄)10YR6/4に近い黄褐色	6.59	6.72	(色調欄)褐灰	・コアに合わせて色調を変更した	6.59	6.72	(色調欄)褐灰	-
15	6.72	6.78	粘土 傾斜20°、幅40~50mmの粘土でφ10mm硬質Gp岩片を含む。やや締っている。	6.72	6.78	粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土でφ10mm硬質Gp岩片を含む。やや締っている。	・色調を追記した	6.72	6.78	6.72~6.78m: 粘土 傾斜20°、幅40~50mmの灰色粘土で径10mmの硬質花崗斑岩の岩片を含む。やや締っている。	-

H24-D1-1 6.72~11.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
16	6.72	6.78	(地質名欄)砂	6.72	6.78	(地質名欄)粘土	6.72	6.78	(地質名欄)粘土	-	
17	6.78	8.84	中砂 6.78~7.00mはφ5~10mm(最大30mm)のGq重円礫を多く含む。	6.78	7.00	中砂 φ5~10mm(最大30mm)のGq重円礫を多く含む。 礫混じり粗粒砂。褐色(10YR4/6)を呈する。ルーズ。	-	6.78	7.00	6.78~7.00m:礫混じり粗粒砂 径5~30mmの花崗斑岩の重円礫を多く含む。褐色を呈する。ルーズ。	-
18	6.78	7.00	(地質名欄)砂	6.78	7.00	(地質名欄)礫混じり粗粒砂	-	6.78	7.00	(地質名欄)礫混じり粗粒砂	-
19	-	-	-	7.00	9.48	スライム(コア採取できず、落下したコアを再採取したもの)	-	7.00	9.48	7.00~9.48m:スライム 中~粗粒砂からなる。均質でルーズ。稀に径60mm以下の花崗斑岩の礫を含む。	スライム区間をまとめて書きした
20	7.00	9.48	(地質名欄)砂	7.00	9.48	(地質名欄)コア欠如	-	7.00	9.48	(地質名欄)コア欠如	-
21	7.00	8.84	ゆるく均質な中砂で、φ2~3mmの石英粒やGq岩片が存在する。φ5mm以上の礫は殆んど含まない。堆積構造は認められない。	-	-	-	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
22	8.00	8.00	φ60mmGq重円礫に分布	8.00	8.00	φ60mmGq重円礫が分布	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
23	8.30	8.30	5'幅10~20mmでφ2~4mmの石英粒、長石粒、Gq岩片が多く含まれる。	-	-	-	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
24	8.32	8.50	礫は粗砂が主体。	-	-	-	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
25	8.84	8.84	粗砂層に漸移する(明確な境界なし)	-	-	-	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
26	8.84	9.48	粗砂 φ1~2mm石英粒、長石粒を多く含む(最大10mmGq重円礫)。全体にゆるい。堆積構造は認められない。	-	-	-	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
27	9.40	9.40	長さ40mm、幅20mm、厚さ3~5mmのGq板状礫を含む。	9.40	9.40	長さ40mm、幅20mm、厚さ3~5mmのGq板状礫を含む。	-	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
28	9.48	10.25	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ5~70mmGq重円~重円礫と、ゆるい中砂~粗砂の基質からなる。硬質率は30%前後で、大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	-	-	-	-	9.48	10.25	9.48~10.25m:砂礫 径2~5mmの石英粒、径5~70mmの花崗斑岩の重円~重円礫とルーズな中~粗粒砂の基質からなる。硬質率は30%前後で大半が硬質礫である。基質は全体にやや赤味を帯びる。	-
29	10.25	11.00	中砂 上端側の10.25~10.40mは若干の粘性土分を含む。このうち、10.30~10.38mは炭化物片を含み有機質である。 10.38m以深はφ2~3mmの石英粒、Gq岩片(最大は15~20mm半クサリ~クサリ礫)を少量含む。よく締まっている。 10.53~10.55mに炭化物片を含む。 堆積構造は認められない。	10.25	11.00	中砂 上端側の10.25~10.40mは若干の粘性土分を含む。このうち、10.30~10.38mは炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色(10GY4/1)。 10.38m以深はφ2~3mmの石英粒、Gq岩片(最大は15~20mm半クサリ~クサリ礫)を少量含む。よく締まっている。 10.53~10.55mに炭化物片を含む。 堆積構造は傾斜45°程度。	-	10.25	11.00	10.25~11.00m:中砂 10.25~10.40mは若干の粘性土分を含む。10.30~10.38mは傾斜45°程度で炭化物片を含み有機質である。暗緑灰色を呈する。 10.38m以深は径2~3mmの石英粒、径15~20mm以下の花崗斑岩の半クサリ~クサリ礫を少量含む。よく締まっている。10.53~10.55mに炭化物片を含む。	-
30	10.25	11.00	(地質名欄)砂	10.25	11.00	(地質名欄)中砂	-	10.25	11.00	(地質名欄)中砂	-

H24-D1-1 11.00~18.16m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
31	11.00	12.15	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ10~160mmCa垂円~垂角礫を多く含む、よく締った中砂~粗砂の基質からなる。礫含有率は40~50%。 11.70~12.15mではφ10~20mmの礫は半クサリ状が主体となる。 11.00~11.05mと11.20~11.25mの基質の一部はマンガン還元により黒褐色化する。	11.00	12.15	砂礫 φ2~5mm石英粒、φ10~160mmCa垂円~垂角礫を多く含む、よく締った中砂~粗砂の基質からなる。礫含有率は40~50%。 11.90~12.15mではφ10~20mmの礫は半クサリ状が主体となる。 11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン還元により黒褐色化する。	11.00	12.15	11.00~12.15m: 砂礫 径2~5mmの石英粒、径10~160mmの花崗斑岩の垂円~垂角礫を多く含む、よく締った中~粗粒砂の基質からなる。礫率は40~50%。 11.90~12.15mでは径10~20mmの半クサリ礫が主体となる。 11.00~11.05mと11.20~11.27mの基質の一部はマンガン還元により黒褐色化する。
32	12.20	12.20	層岩	12.15	12.15	層岩	-	-	下に花崗斑岩の区間を示しているため層岩の記載はしない
33	12.20	12.20	φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)である	12.15	100.00	花崗斑岩 φ1~3mm石英、長石を斑晶とする花崗斑岩(Gp)である	12.15	100.00	12.15~100.00m: 花崗斑岩 斑晶は径1~3mmの石英、長石からなる。
34	12.20	18.10	風化によって硬さは「D」または、著しく軟化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD(岩級区分CL)と硬さE(同CL級)をくり返す(ただし硬さE)が主体。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目自体は風化で砂状化することが多い。割れ目自体の一部は、マンガン還元により黒褐色化する。全般的に硬さEであっても、岩組織と割れ目が残留している。 割れ目は10~30° 割れ目が主体で、一部でこれら割れ目に60~80° 割れ目が交差する。	12.15	18.10	風化によって硬さは「D」または、著しく軟化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD(岩級区分CL)と硬さE(同CL級)をくり返す(ただし硬さE)が主体。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目自体は風化で砂状化することが多い。割れ目自体の一部は、マンガン還元により黒褐色化する。全般的に硬さEであっても、岩組織と割れ目が残留している。 割れ目は10~30° 割れ目が主体で、一部でこれら割れ目に60~80° 割れ目が交差する。	12.15	18.10	12.15~18.10m: 風化によって硬さは「D」または、著しく軟化した「E」となり、深度18.10m付近まで硬さD(岩級区分CL)と硬さE(同CL級)をくり返す。ただし、硬さEが主体である。変質粘土化部や粘土脈の分布は少ない。割れ目自体は風化で砂状化することが多い。割れ目自体の一部は、マンガン還元により黒褐色化する。全般的に原岩組織と割れ目が残留する。傾斜10~30°の割れ目が主体で、一部でこれらに傾斜60~80°の割れ目が交差する。
35	14.78	15.10	珪質のため硬さ「B」の硬質部として残留している	-	-	-	14.78	15.10	14.78~15.10m: 珪質のため硬質部として残留する。 記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
36	14.78	15.10	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Bランク	14.78	15.10	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Bランク	14.78	15.10	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Bランク
37	15.54	15.54	85° 割れ目に厚さ0.5mm白色軟質粘土を挟む。	15.54	15.54	85° 割れ目に厚さ0.5mm白色軟質粘土を挟む。	15.54	15.54	15.54m: 傾斜85° で幅0.5mmの軟質白色粘土を挟む。
38	15.60	15.74	間を60~90° で湾曲して連続する割れ目に厚さ0.5mm白色軟質粘土を挟む。	15.60	15.74	間を60~90° で湾曲して連続する割れ目に厚さ0.5mm白色軟質粘土を挟む。	15.60	15.74	15.60~15.74m: 傾斜60~90° で湾曲して連続する割れ目に幅0.5mmの軟質白色粘土を挟む。
39	15.59	15.93	(岩級区分欄) CL	15.59	15.93	(岩級区分欄) D	15.59	15.93	(岩級区分欄) Dに含める
40	15.82	15.82	φ8mmと大型な長石斑晶1つ分布	-	-	-	15.82	15.82	15.82m: 径8mmの大型な長石斑晶が1つ分布する。
41	16.07	16.07	50° せん断性割れ目、石英斑晶を切断し、かつ、交差する割れ目を切っている(変位量2mm、左ズレ)	16.07	16.07	50° せん断性割れ目、石英斑晶が横断している。各切断し、かつ、交差する割れ目を切っている(変位量2mm、左ズレ) 割れ目には組織部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	16.07	16.07	16.07m: 傾斜50° の割れ目は石英斑晶を横断する。割れ目には組織部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
42	16.71	16.71	24°、幅0.5~1mm石英脈	16.71	16.71	24°、幅0.5~1mmの石英脈を挟む	16.71	16.71	16.71m: 傾斜24° で幅0.5~1mmの石英脈を挟む。
43	-	-	-	17.69	17.80	強く風化・変質し軟質である。やや黄色味を帯びる。40°程度の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。	17.69	17.80	17.69~17.80m: 強く風化・変質し軟質で、やや黄色味を帯びる。傾斜40°程度の割れ目沿いにマンガン汚染が見られる。
44	18.10	19.00	風化により、大半の割れ目が消滅しかかっている。	-	-	-	18.10	19.00	18.10~19.00m: 風化により、大半の割れ目が消滅しかかっている。
45	18.16	18.16	40°の消滅しかかっている割れ目自体の一部で幅5~10mmが淡緑色化(粘土化は伴わない)	18.16	18.16	40°の消滅しかかっている割れ目自体の一部で幅5~10mmが淡緑色化(粘土化は伴わない)	18.16	18.16	18.16m: 傾斜40°の消滅しかかっている割れ目自体の一部で幅5~10mmが淡緑色化するが、粘土化は伴わない。

H24-D1-1 18.37~23.58m

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を書いた理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	記事	上端深度		下端深度
				記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
46	18.30	18.30	20°、幅2~15mmでマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	18.37	18.37	20°、幅2~15mmでマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	転記の修正(18.30⇒18.37)	18.37	18.37	18.37m:傾斜20°で幅2~15mmでマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-	
47	19.00	19.88	10~25°割れ目が残留するが、風化により、一部で消えかかっている。	-	-	-	-	19.00	19.88	19.00~19.88m:傾斜10~25°の割れ目が残留するが、風化により、一部で消えかかっている。	-	
48	19.60	19.83	硬さ[D]の岩片が主体で10~20°割れ目が残留している。 (コアの硬さ欄)Eランク	-	-	-	-	19.60	19.83	19.60~19.83m:傾斜10~20°の割れ目が残留する。 (コアの硬さ欄)Oランク	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
49	19.60	19.83	割れ目や岩組織は大半が消滅している。	19.60	19.83	割れ目や岩組織は大半が消滅している。	周囲と比べて硬質であるためコアの硬さのランクをOランクに変更した	19.60	19.83	19.60~19.83m:割れ目や岩組織は大半が消滅する。	-	
50	19.88	20.25	付近は幅5~20mmで淡緑色化	20.09	20.09	付近は幅5~20mmで淡緑色化。傾斜5°	淡緑色化の傾斜角を追記した	20.09	20.09	20.09m付近、傾斜5°で幅5~20mmで淡緑色化する。	-	
52	20.16	20.19	上端5°、下端15°で、上端は一部で不明瞭、下端はほぼ直線的にシャープに連続する。幅30~35mmのφ5mmの粘土化岩片を多く含む。硬質粘土。灰白(10YR8/2)~に灰白(10YR7/2)を呈する。上記区間以外にはφ5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。	20.16	20.19	上端5°、下端15°で、上端は一部で不明瞭、下端はほぼ直線的にシャープに連続する。幅30~35mmのφ5mmの粘土化岩片を多く含む。硬質粘土。灰白(10YR8/2)~に灰白(10YR7/2)を呈する。上記区間以外にはφ5~10mmの岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。	表現の適正化(ほぼ、軟質化) 転記の修正(「色」の記載漏れ) 硬質粘土については、粘土化しているだけで原岩組織は認められなかったため削除した	20.16	20.19	20.16~20.19m:上端5°で一部不明瞭、下端15°でほぼ直線的にシャープに連続、幅30~35mmでφ5mmの粘土化岩片を多く含む。灰白~に灰白の岩片が主体で粘土化したものが多く、著しく軟質化している。	-	
53	-	-	-	20.19	20.25	傾斜0~5°の割れ目が密集し、砂状化するほど風化している。灰褐色を呈する。幅6cm。	低角度割れ目が密集し砂状化することは周囲と異なる状況であるため追記した	20.19	20.25	20.19~20.25m:傾斜0~5°の割れ目が幅6cmで密集し、砂状化するほど風化する。灰褐色を呈する。	-	
54	20.25	21.04	全区間、割れ目状態。コア形状Vで岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟化した硬さE。20.54~20.77mは硬さと硬さが異なる。割れ目は20°前後が主体で幅1~2mmの軟質な灰白、褐色の粘土脈をはさむことが多い。	20.25	21.04	全区間、割れ目状態。コア形状Vで岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟化した硬さE。20.54~20.77mは硬さと硬さが異なる。割れ目は20°前後が主体で幅1~2mmの軟質な灰白、褐色の粘土脈をはさむことが多い。	表現の適正化(原岩組織、挟む、軟質化、軟弱⇒軟質)	20.25	21.04	20.25~21.04m:原岩組織や割れ目は消滅せずに残留するものが多いが、20.25~20.54mと20.77~21.04mは著しく軟質化し、20.54~20.77mはやや軟質である。傾斜20°前後の割れ目が主体で、幅1~2mmの軟質な灰白色、褐色の粘土脈を挟むことが多い。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状、割れ目状態の情報は記載しない	
55	20.65	21.94	10~30°の風化で消滅しかかった割れ目ぞいに幅5~15mmが褐色(10YR 7/6)を呈し、一部で砂状化する。	20.65	21.94	10~30°の風化で消滅しかかった割れ目ぞいに幅5~15mmが褐色(10YR 7/6)を呈し、一部で砂状化する。	表現の適正化(扱い)	20.65	21.94	20.65~21.94m:傾斜10~30°の風化で消滅しかかった割れ目ぞいに幅5~15mmが褐色を呈し、一部で砂状化する。	-	
56	21.04	24.53	ほぼ硬さ[D]からなるが、局部的には割れ目ぞいに軟化著しくなる部分も含まれる。割れ目と岩組織は明瞭に残留する。割れ目は10~35°が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5mm~1mmとごく薄い粘土をはさむが、幅広い粘土化部は分布しない。	21.04	24.53	ほぼ硬さ[D]からなるが、局部的には割れ目ぞいに軟化著しくなる部分も含まれる。割れ目と岩組織は明瞭に残留する。割れ目は10~35°が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5mm~1mmとごく薄い灰白~褐色粘土を挟むが、幅広い粘土化部は分布しない。	表現の適正化(ほぼ、扱い、軟質化、原岩組織、挟む) 挟む粘土の色調について追記した	21.04	24.53	21.04~24.53m:局部的に割れ目ぞいに軟化著しくなる部分を含む。割れ目と原岩組織は明瞭に残留する。傾斜10~35°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部に幅0.5~1mmの灰白~褐色粘土を挟むが、幅広い粘土化部は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
57	22.77	22.77	76°割れ目、幅2~3mmの軟弱な褐色(10YR 7/6)粘土脈をはさむ。	22.77	22.77	76°割れ目、幅2~3mmの軟弱な褐色(10YR 7/6)粘土脈を挟む。面は凹凸。	表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) 面の性状を追記した	22.77	22.77	22.77m:傾斜76°で幅2~3mmの軟弱な褐色の粘土脈を挟む。面は凹凸がある。	-	
58	23.13	23.13	58°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。また、一部に軟弱な幅0.5mmの白色粘土をはさむ。	23.13	23.13	58°のせん断性割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と判断する可能性がある。を切っている。また、一部に軟弱な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) 割れ目及び周辺の状況について追記した 追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	23.13	23.13	23.13m:傾斜58°の割れ目で、交差する高角度割れ目は止まっている場合と判断する可能性がある。また、一部に軟弱な幅0.5mmの白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
59	23.40	23.40	75~80°で若干湾曲するせん断性割れ目、23.41mで交差する25°割れ目を切る。変位量7mm、右ズレ)	23.40	23.40	75~80°で若干湾曲するせん断性割れ目、23.41mで交差する25°割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度右方向にズレているように見えるが、上端側では横断している。を切る変位量2mm、右ズレ)高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟むが、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	コアに合わせて変位量を変更した 割れ目及び周辺の状況について追記した 追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	23.40	23.40	23.40m:傾斜75~80°で若干湾曲する割れ目と23.41mで交差する傾斜25°割れ目は開口し、開口部の下端側では2mm程度右方向にズレているように見えるが、上端側では横断する。高角度割れ目には幅0~2mmの暗褐色粘土を挟むが、粘土は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-	
60	23.58	23.58	50°、幅1mm石英脈、密着している。	23.58	23.58	50°、幅1mmの石英脈を挟む。密着している。	表現の適正化	23.58	23.58	23.58m:傾斜50°で幅1mmの石英脈を挟む。密着している。	-	

H24-D1-1 23.91~28.68m

コア観察カード			造正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書状図記事			コア観察カードの造正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを造正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
61	23.91	23.91	30° 割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、φ0.5mm以下で微細な鉱物が晶出している。	23.91	23.91	30° 割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、φ0.5mm以下で微細な鉱物が晶出している。	23.91	23.91	23.91m 傾斜30° の割れ目の下端側幅10mmの一部は淡緑色化する。変質粘土化は伴わないが、径0.5mm以下の微細な鉱物が晶出する。	
62	24.53	30.53	コア形状Vで、硬さは「D」が主体であるが、風化で軟化著しい硬さ「E」も含む。硬さ「E」でも岩組織や割れ目は残留しているものが大半で、硬さ「D」も含め、全体の割れ目は10~50° が主体で、一部で10~50° 割れ目に60~70° 割れ目が交差する。多くは割れ目ぞいに砂状化するが、粘土化や粘土層の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。新たに交差する割れ目を切りながら、直線的でシャープに連続するせん断性割れ目が分布する。	24.53	30.53	コア形状Vで、硬さは「D」が主体であるが、風化で軟化著しい硬さ「E」も含む。硬さ「E」でも原岩組織や割れ目は残留しているものが大半で、硬さ「D」も含め、全体の割れ目は10~50° が主体で、一部で10~50° 割れ目に60~70° 割れ目が交差する。多くは割れ目ぞいに砂状化するが、粘土化や粘土層の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。 新たに交差する割れ目を切りながら、直線的でシャープに連続するせん断性割れ目が分布する。	24.53	30.53	24.53~30.53m: 全体にやや軟質で、風化で著しく軟質化する部分も含む。原岩組織や割れ目は残留するものが大半で、傾斜10~50° の割れ目が主体で、一部で傾斜60~70° の割れ目が交差する。多くは割れ目ぞいに砂状化するが、粘土化や粘土層の分布は少ない。一部でマンガン鉱染を伴ない黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない
63	25.05	25.05	35°、割れ目ぞいに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も混入する。	25.05	25.05	35°、割れ目ぞいに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も含む。	25.05	25.05	25.05m 傾斜35° の割れ目ぞいに幅10~20mmが砂状化で一部粘土も含む。	
64	25.12	25.12	40° のせん断性割れ目で、交差する微細な割れ目を切っている。周囲10mmにφ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出。また、割れ目に幅0.5mmの褐色軟弱粘土を伴はさむ。	25.12	25.12	40° のせん断性割れ目で、交差する微細な割れ目は止まっている。切切っている。周囲10mmにφ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出。また、割れ目に幅0.5mmの褐色軟弱粘土を伴はさむ。また、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	25.12	25.12	25.12m 傾斜40° の割れ目で交差する微細な割れ目は止まっている。周囲幅10mmに径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が晶出する。また、割れ目に幅0.5mmの軟質な褐色粘土を伴む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
65	-	-	-	25.33	25.33	傾斜36°、幅5~15mm砂状化。白色粘土が混じり一部マンガン鉱染を受け黒色化している。	25.33	25.33	25.33m 傾斜36° で幅5~15mmが砂状化する。白色粘土が混じり、一部マンガン鉱染を受け黒色化する。	
66	26.50	27.04	26.50m~22° ~27.04m~35° で囲まれた部分は、全体に軟化著しくなる。一部で幅0.5mm白色軟弱粘土層を伴う。岩組織は残留する。	26.50	27.04	26.50m~22° ~27.04m~35° で囲まれた部分は、全体に軟化著しくなる。一部で幅0.5mmの白色軟弱粘土層を伴う。原岩組織は残留する。	26.50	27.04	26.50m~22° と27.04m~35° の割れ目で囲まれた部分は、全体に軟化が著しい。一部で幅0.5mmの軟質な白色粘土層を伴う。原岩組織は残留する。	
67	27.21	27.21	34° のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目ぞいに幅1~3mmが砂状化する。	27.21	27.21	34° のせん断性割れ目で、交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。切切っている。割れ目ぞいに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.21	27.21	27.21m 傾斜34° の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。割れ目ぞいに幅1~3mmが砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
68	-	-	-	27.43	27.43	傾斜20° 程度、幅2~5mmの石英脈挟在。	27.43	27.43	27.43m 傾斜20° 程度で幅2~5mmの石英脈を挟む。	
69	27.54	27.64	40° 前後の割れ目ぞいに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。	27.54	27.64	40° 前後の割れ目ぞいに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。	27.54	27.64	27.54~27.64m 傾斜40° 前後の割れ目ぞいに風化が進み、著しく軟質化し、一部砂状を呈する。	
70	27.81	27.81	32° のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。割れ目は幅1~2mm砂状化。	27.81	27.81	32° のせん断性割れ目で、交差する高角度割れ目が横断している。切切っている。割れ目は幅1~2mm砂状化。割れ目に挟在物は伴わず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	27.81	27.81	27.81m 傾斜32° の割れ目と交差する高角度割れ目が横断する。割れ目は幅1~2mmで砂状化する。割れ目に挟在物は伴わず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	
71	27.81	27.90	幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土が長さ5~10cmで分布。	27.81	27.90	幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土が長さ5~10cmで分布。	27.81	27.90	27.81~27.90m: 幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土が長さ5~10cmで分布する。	
72	28.14	28.23	28.14m~34° ~28.23m~20° で囲まれた部分は風化で著しく軟化し砂状化~細片状化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	28.14	28.23	28.14m~34° ~28.23m~20° で囲まれた部分は風化で著しく軟化し砂状化~細片状化する。一部でマンガン鉱染を伴う。 28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	28.14	28.23	28.14m~34° と28.23m~20° の割れ目で囲まれた部分は風化で著しく軟化し砂状化~細片化する。一部でマンガン鉱染を伴う。28.14mに幅1~3mmの赤褐色粘土を挟む。	
73	28.68	28.68	43° のせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。下盤側に幅1~2mmの石英脈を伴う。	28.68	28.68	43° のせん断性割れ目で、交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。切切っている。下盤側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目は細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	28.68	28.68	28.68m 傾斜43° の割れ目で交差する割れ目は止まっている場合と横断する場合がある。下盤側に幅1~2mmの石英脈を伴う。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	

H24-D1-1 28.76~34.69m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
74	28.76	28.76	44°のせん断性割れ目、交差する石英脈や割れ目を切っている。 <input checked="" type="checkbox"/>	28.76	28.76	44°のせん断性割れ目、交差する石英脈や割れ目が止まっている場合がある。を切っている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 ・石英脈や割れ目は交差せず、止まっているように見えるためその旨を追記した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した。 ・上記の理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	28.76	28.76	28.76m: 傾斜44°の割れ目で交差する石英脈や割れ目が止まっている場合がある。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	
75	29.38	29.93	10~30°割れ目ぞいに風化により軟質が著しくなり、割れ目周辺では砂状化。 コア硬くなる(硬さ「D」)。	29.38	29.93	10~30°割れ目ぞいに風化により軟質が著しくなり、割れ目周辺では砂状化。 ・表現の適正化(沿い、他)	29.38	29.93	29.38~29.93m: 傾斜10~30°の割れ目ぞいに風化で軟質が著しくなり、割れ目周辺では砂状化する。	
76	29.93	30.53	-	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
77	30.12	30.12	35°、割れ目ぞいに幅20~30mmが砂状~細片状化。	30.12	30.12	35°、割れ目ぞいに幅20~30mmが砂状~細片状化。 ・表現の適正化(沿い、細片状化⇒細片化)	30.12	30.12	30.12m: 傾斜35°の割れ目ぞいに幅20~30mmが砂状~細片化する。	
78	30.17	30.34	70~90°で湾曲した割れ目の半分側は硬質(硬さ「C」)。	30.17	30.34	70~90°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側はやや硬質(硬さ「C」)。 ・表現の適正化(割れ目の半分側⇒割れ目を境にコアの上側) ・コアに合わせて硬さを変更した	30.17	30.34	30.17~30.34m: 傾斜70~90°で湾曲した割れ目が分布し、割れ目を境にコアの上側は硬さ「C」とやや硬質である。	
79	30.53	31.54	30~50°割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかり、不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。	-	-	-	30.53	31.54	30.53~31.54m: 傾斜30~50°の割れ目と低密着割れ目が主体で、一部は風化で消滅しかり、不明瞭な部分もある。粘土脈や粘土化部は分布しないが、長石が粘土化し白濁化する。	
80	31.13	31.13	44°のせん断性割れ目、上盤側は幅10~20mmが角礫状(φ5~10mmGp岩片と締った砂質土)、下盤側は硬質岩片で、岩片には、せん断性割れ目に対してほぼ直交する60°割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	31.13	31.13	上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した。下盤も同様。 ・表現の適正化(ほぼ、角礫状⇒角礫状、締った⇒硬質な、砂質土⇒砂状部) ・挟在物及び割れ目周辺の状況について追記した。 ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	31.13	31.13	31.13m: 傾斜44°の割れ目の上盤側は幅10~20mmが径5~10mmの花崗斑岩の岩片と硬質な砂状部からなる角礫状、下盤側は硬質岩片からなり、岩片には傾斜44°の割れ目に対してほぼ直交する傾斜60°の割れ目が分布する。角礫状部は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	
81	31.54	31.94	40~50°割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟在はないが、割れ目ぞいに薄く砂状化する。	31.54	31.94	40~50°割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟在はないが、割れ目ぞいに薄く砂状化する。 ・表現の適正化(沿い)	31.54	31.94	31.54~31.94m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、これらは直線的でシャープに連続するものが多い。粘土の挟在はないが、割れ目ぞいに薄く砂状化する。	
82	31.94	32.38	硬質(硬さ「C」)の残留部で中石として分布。	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
83	32.14	32.14	42°、幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。	-	-	-	32.14	32.14	32.14m: 傾斜42°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩によく密着して連続する。	
84	32.24	32.24	65°で幅8~20mmの開口状割れ目が分布。砂とφ2~3mmGp岩片で充填されている。	-	-	-	32.24	32.24	32.24m: 傾斜65°で幅8~20mmの開口状割れ目、砂とφ2~3mmの花崗斑岩の岩片で充填する。	
85	32.38	34.03	幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に含む。全体に10~30°割れ目が主体。	-	-	-	32.38	34.03	32.38~34.03m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、幅30~100mmで砂状~細片化部を互層状に含む。	
86	33.20	33.31	硬質になる(硬さ「C」)	-	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
87	33.20	33.31	(コアの硬さ欄)Dランク	33.20	33.31	(コアの硬さ欄)Cランク	33.20	33.31	(コアの硬さ欄)Cランク	
88	33.83	33.97	φ5~10mmGp岩片と粘土化した基質からなる。一部にスライムを含む。	33.83	33.97	φ5~10mmGp岩片と粘土化した基質からなる。一部にスライムを含む。	33.83	33.97	33.83~33.97m: 径5~10mmの花崗斑岩の岩片と粘土化した基質からなる。	
89	34.03	34.69	硬さ「C」の硬質部が主体、10~30°の割れ目が主体で、せん断性割れ目も含む。一部では、割れ目ぞいに風化で砂状化する	34.03	34.69	硬さ「C」の硬質部が主体、10~30°の割れ目が主体で、せん断性割れ目も含む。34.56mの40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目ぞいに風化で砂状化する ・表現の適正化(沿い) ・せん断性割れ目について、34.56mの割れ目でズレているように見える高角度割れ目があるが、止まっている高角度割れ目もあり、系統的なズレが認められないため「せん断性割れ目」を削除した	34.03	34.69	34.03~34.69m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、34.56mの傾斜40°の割れ目と交差する高角度割れ目には、止まっているものもあり、系統的なズレは見られない。一部では、割れ目ぞいに風化で砂状化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
90	34.47	34.69	白色化するが、粘土化はない。	-	-	-	34.47	34.69	34.47~34.69m: 白色化するが、粘土化はない。	

H24-D1-1 34.82~40.14m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	記事	記事	記事		記事	記事	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事
			記事	記事				
			記事	記事				
			記事	記事				
			記事	記事				
91	34.82	34.95	20~30°のせん断性割れ目がほぼ平行に数条分布する(色調の境界部が多い)。	20~30°のせん断性割れ目がほぼ平行に数条分布する(色調の境界部が多い)。割れ目にマンガンが付着しているが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列は見られない。	・表現の適正化(ほぼ)。 ・挟在物について追記した。 ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	34.82	34.95	34.82~34.95m:傾斜20~30°の割れ目がほぼ平行に数条分布する。色調境界になっている場合が多い。割れ目にマンガンが付着するが、細粒部は伴わない。34.82mの割れ目には幅10mm程度でマンガン濃集部を挟むが、マンガン濃集部内の粒子に定向配列はみられない。
92	34.79	35.20	(色調欄)2.5Y8/1灰白	(色調欄)10YR6/6明黄褐	・コアに合わせて色調を変更した。	34.79	35.20	(色調欄)明黄褐
93	34.69	38.81	硬さ「D」であるが、35.20~35.96m間は硬さ「C」と硬質。	硬さ「D」であるが、35.20~35.96m間は硬さ「C」と硬質。	・35.20~35.96mの記事に同じ内容の記載があるため削除した。	34.69	38.81	-
94	35.26	35.96	硬さCと硬質。割れ目ぞいに薄く砂状化する。	硬さCと硬質。割れ目ぞいに薄く砂状化する。	・表現の適正化(扱い)	35.26	35.96	35.26~35.96m:割れ目ぞいに薄く砂状化する。
95	35.95	38.81	一部で風化により著しく軟化する部分も含むが、硬ね硬さDが主体。粘土化や粘土脈の分布はわずかであるが、長石は粘土化し白濁~軟質化する。割れ目は10~40°と、これに斜交~直交する50~70°割れ目からなる。割れ目の一部は砂状を呈するものも含まれる。	一部で風化により著しく軟化する部分も含むが、硬ね硬さDが主体。粘土化や粘土脈の分布はわずかであるが、長石は粘土化し白濁~軟質化する。割れ目は10~40°と、これに斜交~直交する50~70°割れ目からなる。割れ目の一部は砂状を呈するものも含まれる。	・表記の修正(35.95⇒35.96) ・表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質)	35.96	38.81	35.96~38.81m:傾斜10~40°と、これに斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の一部は砂状を呈する。粘土化や粘土脈の分布はわずかであるが、長石は粘土化し白濁~軟質化する。一部で風化により著しく軟化する部分も含む。
96	36.45	36.47	上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進んでいる。φ2~4mm石英粒やφ0.5mm以下の微細な白雲母を含む。色調は淡緑色化(2.5GY 7/1明オリーブ灰)する。	上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進んでいる。φ2~4mm石英粒やφ0.5mm以下の微細な白雲母を含む。色調は淡緑色化(2.5GY 7/1明オリーブ灰)する。	・表現の適正化(m/m⇒mm) ・晶出する鉱物は白雲母であるため変更した。	36.45	36.47	36.45~36.47m:上下端35°の割れ目で囲まれ、粘土化が進む。径2~4mmの石英粒や径0.5mm以下の微細な白雲母を含む。淡緑色化し、明オリーブ灰色を呈する。
97	-	-	-	変質し、黄色味を帯びる。	・黄色味を帯びることは周囲と異なる状況であるため追記した。	37.10	37.41	37.10~37.41m:変質し、黄色味を帯びる。
98	38.00	38.14	38.00~45° ~38.14m~60°で囲まれ、全体がφ10mm前後の岩片に砕けている。	38.00m、45° ~38.14m、60°で囲まれ、全体がφ10mm前後の岩片を呈する。コアチューブ引き上げ時に岩片化したものである。に砕けていない。	・表記の修正(単位記載漏れ) ・コアチューブ引き上げ時に岩片化したものであるためその旨を追記し、「砕けている」を削除した。	38.00	38.14	38.00m~45°と38.14m~60°の割れ目で囲まれ、全体が径10mm前後の岩片状を呈する。コアチューブ引き上げ時に岩片化したものである。
99	38.52	38.52	42°のせん断性割れ目と交差する割れ目を切っている。明褐色(7.5YR 5/6)、幅3~8mmの軟弱粘土脈を挟む。	42°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。切っぺい色。明褐色(7.5YR 5/6)、幅3~8mmの軟弱粘土脈を挟み、含まれる粒子に定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) ・割れ目を切っているとしているが、42°の割れ目を挟んで対となる割れ目は見られないため切っぺい色を「止めている」に変更した。 ・割れ目周辺の状況について追記した。 ・粘土中の粒子の定向配列について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	38.52	38.52	38.52m:傾斜42°の割れ目は、交差する割れ目を止めている。幅3~8mmの軟弱な明褐色粘土脈を挟み、含まれる粒子に定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
100	38.81	39.24	39.04~39.12mに硬さDの岩片を含むが、これ以外には著しく軟化した硬さ「E」である。	-	-	38.81	39.24	39.04~39.12m:やや硬質な岩片を含む。
101	38.81	39.24	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	38.81	39.24	(岩級区分欄)CLに含める
102	39.14	39.14	15°、幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が分布。	15°、幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が分布。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	39.14	39.14	39.14m:傾斜15°で幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。
103	39.24	40.17	硬さ「C」と硬質であるが、割れ目の一部は風化で砂状化する。20~40°割れ目と、これに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。部分的に幅1~2mmの粘土脈を挟む。	硬さ「C」と硬質であるが、割れ目の一部は風化で砂状化する。20~40°割れ目と、これに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。部分的に幅1~2mmの明褐色の粘土脈を挟む。	・粘土脈の色調を追記した。 ・表現の適正化(挟む)	39.24	40.17	39.24~40.17m:割れ目の一部は風化で砂状化する。傾斜20~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。部分的に幅1~2mmの明褐色の粘土脈を挟む。
104	39.67	39.67	44°のせん断性割れ目で、交差する割れ目を3ヶ所切っている。変位10mm。	44°のせん断性割れ目は、交差する割れ目を3箇所止めている。切っぺい色。変位10mm。割れ目には挟在物が認められず、止められている各割れ目が44°の割れ目を挟んで系統的に変位していない。	・表現の適正化(箇所) ・割れ目を切っているとしているが、44°の割れ目を挟んで対となる割れ目は見られないため切っぺい色を「止めている」に変更した。 ・割れ目及び変位の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」変位10mmを削除した。	39.67	39.67	39.67m:傾斜44°の割れ目は、交差する割れ目を3箇所止めている。割れ目には挟在物が認められず、止められている各割れ目が傾斜44°の割れ目を挟んで系統的に変位していない。
105	40.08	40.14	各々40°、35°の割れ目ぞいに著しく軟化する。	各々40°、35°の割れ目ぞいに著しく軟化する。	・表現の適正化(扱い、軟質化)	40.08	40.14	40.08m~40°、40.14m~35°の各割れ目ぞいに著しく軟化する。

H24-D1-1 40.17~45.91m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
106	40.17	40.69						40.17~40.69m: 上下に比べ、割れ目は少なくなる。		
107	40.47	40.50	40.47m・25°と40.50m・36°に囲まれた部分は著しく軟化し、砂状~φ5mm細片化する。	40.47	40.50	40.47m・25°と40.50m・36°に囲まれた部分は著しく軟化し、砂状~φ5mm細片化する。		40.47 40.50	40.47m・25°と40.50m・36°に囲まれた部分は著しく軟化し、砂状~φ5mmに細片化する。	
108	40.69	41.18	30~40°割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目ぞいに砂状化する。また、一部の割れ目には幅1~2mmの軟弱な白色~淡褐色粘土をはさむ。	40.69	41.18	30~40°割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目ぞいに砂状化する。また、一部の割れ目には幅1~2mmの軟弱な白色~淡褐色粘土を挟む。		40.69 41.18	40.69~41.18m: 傾斜30~40°の割れ目主体で、一部は消滅しかかっている。割れ目ぞいに砂状化する。一部の割れ目に幅1~2mmの軟弱な白~淡褐色粘土を挟む。	
109	41.18	41.45	ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅している。原岩組織は明瞭に残留するが、コア全体が著しく軟化している。	41.18	41.45	ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅している。原岩組織は明瞭に残留するが、コア全体が著しく軟化している。		41.18 41.45	41.18~41.45m: ごく一部で割れ目は残留するが、大半は風化で消滅する。原岩組織は明瞭に残留するが、コア全体が著しく軟化している。	
110	41.45	42.23	30~40°の割れ目主体で、割れ目ぞいに砂状化し、一部では砂状部が厚くなる。	41.45	42.23	30~40°の割れ目主体で、割れ目ぞいに砂状化し、一部では砂状部が厚くなる。		41.45 42.23	41.45~42.23m: 傾斜30~40°の割れ目が主体で、割れ目ぞいに砂状化し、一部では砂状部の幅が広くなる。	
111	-	-	-	41.86	41.86	傾斜42°の割れ目に沿って幅3cm程度褐色化が顕著、幅2mm程度の砂状部を挟む。		41.86 41.86	41.86m: 傾斜42°の割れ目ぞいに幅3cm程度で褐色化が顕著である。幅2mm程度の砂状部を挟む。	
112	42.23	42.50	幅1~3mm軟弱な白色粘土系が網状に分布し、全体が軟化著しい。	42.23	42.50	幅1~3mm軟弱な白色粘土系が網状に分布し、全体が軟化著しい。		42.23 42.50	42.23~42.50m: 幅1~3mmの軟弱な白色粘土系が網状に分布し、全体に軟化が著しい。	
113	42.27	42.27	42°はせん断性割れ目で、幅5~8mmの軟弱な褐色粘土系をはさむ。	42.27	42.27	42°のせん断性割れ目で、幅5~8mmの軟弱な褐色粘土系を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端側に流入している。粘土中の粒子の定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		42.27 42.27	42.27m: 傾斜42°で幅5~8mmの軟弱な褐色粘土系を挟む。粘土の境界は不明瞭で、下端側に流入する。粘土中の粒子の定向配列は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
114	42.49	42.49	37°はせん断性割れ目で、幅1~2mmの軟弱なぶい赤褐色(5YR 5/3)の粘土系をはさむ。	42.49	42.49	37°のせん断性割れ目で、幅1~2mmの軟弱なぶい赤褐色(5YR 5/3)の粘土系を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		42.49 42.49	42.49m: 傾斜37°で幅1~2mmの軟弱なぶい赤褐色の粘土系を不連続に挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
115	42.50	44.56	10~40°割れ目や低密着割れ目が主体。割れ目ぞいに薄く風化し、一部には、幅1~2mmの白色~褐色(7.5YR 6/6)の軟弱な粘土をはさむ割れ目も多い。	42.50	44.56	10~40°割れ目や低密着割れ目が主体。割れ目ぞいに薄く風化し、一部には、幅1~2mmの白色~褐色(7.5YR 6/6)の軟弱な粘土を挟む割れ目も多い。		42.50 44.56	42.50~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目や低密着割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く風化し、一部に幅1~2mmの白~褐色の軟弱な粘土を挟む。	
116	43.15	43.20	43.15m、15°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。前者の43.15m・15°では幅2mmの風化砂をはさむ。43.20m、36°のせん断割れ目は他の割れ目を切り、幅3mmのぶい層(7.5YR 5/3)軟弱粘土をはさむ。	43.15	43.20	43.15m、15°のせん断性割れ目で、高角度割れ目は止まっている。交差する割れ目を切っている。前者の43.15m・15°では幅2mmの風化砂状部を挟む。43.20m36°のせん断割れ目は他の割れ目を止めている。切り、幅3mmのぶい層(7.5YR 5/3)軟弱粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入している。いずれの割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		43.15 43.20	43.15m: 傾斜15°の割れ目で高角度割れ目が止まっている。幅2mmの風化砂状部を挟む。 43.20m: 傾斜36°の割れ目は他の割れ目を止めている。幅3mmの軟弱なぶい層褐色粘土を挟むが、高角度割れ目にも流入する。いずれの割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
117	43.74	44.56	10~40°と斜交~直交する60~90°の割れ目も分布し、φ10~20mmに岩片化する。割れ目ぞいに砂状化することが多い。	43.74	44.56	10~40°と斜交~直交する60~90°の割れ目も分布し、φ10~20mmに岩片化する。割れ目ぞいに砂状化することが多い。		43.74 44.56	43.74~44.56m: 傾斜10~40°の割れ目と、これに斜交~直交する60~90°の割れ目が分布し、径10~20mmに岩片化する。割れ目ぞいに砂状化することが多い。	
118	44.05	44.08	44.05m・10°~44.08m・10°ないし75°で囲まれた部分は、砂状~φ5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。	44.05	44.08	44.05m・10°~44.08m・10°ないし75°で囲まれた部分は、砂状~φ5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。		44.05 44.08	44.05m・10°と44.08m・10°の割れ目で囲まれた部分は、砂状~径5~10mmの細岩片状を呈する。粘土化はない。	
119	44.41	44.43	珪質部で、硬質岩片として残留している。	-	-	-		44.41 44.43	44.41~44.43m: 珪質部で、硬質岩片として残留する。	
120	44.56	45.91	20~40°と60~80°割れ目が交差し、φ5~10mmの岩片状と、岩片間の砂質土の基質からなる、基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟化する。	44.56	45.91	20~40°と60~80°割れ目が交差し、φ5~10mmの岩片状と、岩片間の砂状部の基質からなる、基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟化する。		44.56 45.91	44.56~45.91m: 傾斜20~40°と60~80°の割れ目が交差し、径5~10mmの岩片状と岩片間の砂状部の基質からなる、基質はやや粘土化が進み、全体は著しく軟化する。	

H24-D1-1 45.10~45.60m

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
121	45.10	45.56	割れ目が明瞭に残留する。 <input checked="" type="checkbox"/>	-	-	-		45.10	45.56	45.10~45.56m: 割れ目が明瞭に残留する。	-
122	45.27	45.27	48° はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切っている。幅3~4mmの軟弱な白色粘土層をはさむ。	45.27	45.27	48° のせん断性割れ目で、交差する割れ目は止まっている。交差する割れ目を切っている。幅3~4mmの軟弱な白色粘土層を挟む。粘土は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) ・48°の割れ目を横断する黒色鉱物が見られ、交差する割れ目の対となる割れ目が見られないため「切っている」を「止まっている」に変更した ・粘土の連続性について追記した ・割れ目周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	45.27	45.27	45.27m: 傾斜48°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。幅3~4mmの不連続で軟弱な白色粘土層を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
123	45.60	45.60	70° のせん断性割れ目で、石英斑晶を切断して連続する。幅2~3mmの軟弱な白色~明赤灰(2.5YR 7/2)の粘土層をはさむ。	45.60	45.60	70° のせん断性割れ目が石英斑晶を切断して連続する。幅2~3mmの軟弱な白色~明赤灰色(2.5YR 7/2)の粘土層を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・切断された石英斑晶が確認できないためその記載を削除した ・傾記の適正化(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) ・粘土の連続性について追記した ・割れ目周辺の状況について追記した ・追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	45.60	45.60	45.60m: 傾斜70°の連続した割れ目に幅2~3mmの軟弱な白~明赤灰色粘土層を挟む。明赤灰色粘土は不連続である。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H24-D1-1 45.91~48.28m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深さ	下端深さ	記事 (変更箇所を赤きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深さ	下端深さ	記事を削除・変更・追記した理由	上端深さ	下端深さ		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容	
124	45.91	48.28	破砕帯	45.91	48.28	破砕部			●45.91~48.28m: 破砕部 45.91~45.94m: 粘土質塊状破砕部(Hb) 上端52°, 下端35°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化したGo岩片を多く含む軟弱な硬質粘土。明赤灰色(2.5YR 7/2)を呈し、厚さ30mm	
125	45.91	45.94	Hb 上端52°, 下端35°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化したGo岩片を多く含む軟弱な硬質粘土。明赤灰色(2.5YR 7/2)を呈し、厚さ30mm	45.91	45.94	Hb 粘土質塊状破砕部 上端52°, 下端35°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5mmで粘土化したGo岩片を多く含む軟弱な硬質粘土。明赤灰色(2.5YR 7/2)を呈し、厚さ30mm 含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			破砕部 ・岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・破砕部内物質、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
126	45.94	46.41	Hj 上端42°, 下端15°で両者とも直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網目状に分布する。粘土混じり岩片状。淡黄褐色を呈し、厚さ300mm(45°)	45.94	46.41	Hj 上端35°, 下端15°で両者とも直線的でシャープに連続。径10mm前後の岩片間を幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網目状に分布する。粘土混じり岩片状。淡黄褐色を呈し、厚さ300mm(45°) やや軟質⇒硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			・表記の修正(42°⇒35°)。上位のHbの下端境界の傾斜角と不整合 ・表現の適正化(混じり 軟弱⇒軟質) ・厚さについて45°と区間長で求めた値と不整合であるため削除した ・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
127	46.41	46.45	Hc-2(主せん断面・47.65m) 上端15°, 下端20°で上端は直線的でシャープに、下端はやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmの粘土化したGo岩片を含む。硬質な砂混じり粘土で淡黄褐色(10YR 8/3)を呈する。厚さ25~30mm	46.41	46.45	Hc-2(主せん断面・47.65m) 上端15°, 下端20°で上端は直線的でシャープに、下端はやや波打ちながら連続。径1~3mmと少量の径5mmの粘土化したGo岩片を含む。やや硬質な砂混じり粘土で淡黄褐色(10YR 8/3)を呈する。厚さ25~30mm 幅が縮減し、直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			・主せん断面の記事は、当該区間のもではないため削除した ・表現の適正化(やや、直線的⇒硬質) ・砂分を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
128	46.45	47.64	Hj 上端20°, 下端20°で両者ともやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅したGo岩片と岩片間を縫うように網状に分布する幅1~2mmの白色軟弱粘土層および46.80mでは幅8mm・57°の灰黄褐色粘土などからなる粘土混じり岩片状で、色調は、明黄褐色である。厚さ1090mm(コア長)	46.45	47.64	Hj 上端20°, 下端20°で両者ともやや波打ちながら連続。径5~20mmの岩組織がほぼ消滅したGo岩片と岩片間を縫うように網状に分布する幅1~2mmの白色軟弱粘土層および46.80mでは幅8mm・57°の灰黄褐色粘土などからなる粘土混じり岩片状で、色調は、明黄褐色である。厚さ1090mm(コア長) やや軟質⇒硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 46.77~46.79mのほぼ水平に分布する暗褐色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものである。		45.91	48.28	・表現の適正化(やや、混じり、軟弱⇒軟質) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・46.77~46.79mの人為的な細粒部について追記した
129	47.64	47.65	Hc-2(主せん断面・47.65m) 上端10°, 下端10°で上端はやや波打ちながら、下端は直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmのGo岩片を含む。やや硬質な砂混じり粘土で明赤灰色を呈する。厚さ10~15mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	47.64	47.65	Hc-2(最新活動面・47.65m) 上端20°, 下端10°で上端はやや波打ちながら、下端は直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と少量の粘土化した径5mmのGo岩片を含む。やや軟質な砂混じり粘土で明赤灰色を呈する。厚さ10~15mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。			・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(やや) ・砂分を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・粘土は実質が進んで軟質であるため硬軟を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
130	47.65	48.18	Hj 上端10°, 下端34°で両者とも直線的でシャープに連続。径5~20mmの一部で岩組織が残留。一部で消滅したGo岩片と岩片間を網状に分布する幅1~2mmの白色軟弱粘土層からなる。粘土混じり岩片状で明赤灰~明褐色を呈する。厚さ530mm(コア長)	47.65	48.18	Hj 上端10°, 下端34°で両者とも直線的でシャープに連続。径5~20mmの一部で岩組織が残留。一部で消滅したGo岩片と岩片間を網状に分布する幅1~2mmの白色軟弱粘土層からなる。粘土混じり岩片状で明赤灰~明褐色を呈する。厚さ530mm(コア長) やや軟質⇒硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			・表現の適正化(混じり 軟弱⇒軟質) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
131	48.18	48.26	Hb 上端34°, 下端68°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後のGo岩片からなる硬質粘土で、粘土はやや締っている。灰白色(7.5YR 8/5)⇒明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さは40~70mm	48.18	48.26	Hb 粘土質塊状破砕部 上端34°, 下端68°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と下部部に硬質岩片を残すが、これ以外は粘土化した径5mm前後のGo岩片からなる粘土質塊状破砕部で、粘土はやや硬質。灰白色(7.5YR 8/5)⇒明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さは40~70mm 含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			・岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の統一(締つ⇒硬質) ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
132	48.26	48.28	Hc-2 上端68°, 下端68°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含むやや硬質な明黄褐色砂混じり粘土で、厚さ6~8mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。下端の灰白色の細粒部は不連続である。	48.26	48.28	Hc-2 上端68°, 下端68°で両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含むやや硬質な明黄褐色砂混じり粘土で、厚さ6~8mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。下端の灰白色の細粒部は不連続である。			・表現の統一(締つ⇒硬質) ・砂分を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	

H24-D1-1 48.28~53.77m

コア観察カード		記事		適正化すべき記事内容		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更)	
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	記事	記事
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
133	48.28	48.67	岩組織が残留したφ10~20mmの硬さDの岩片からなり、一部岩片間に白色軟弱な幅1~2mmの粘土が分布(連続性は悪く短い)。風化により割れ目は消滅しなかったものが多い。	48.28	48.67	原岩組織が残留したφ10~20mmの硬さDの岩片からなり、一部岩片間に白色軟弱な幅1~2mmの粘土が分布(連続性は悪く短い)。風化により割れ目は消滅しなかったものが多い。		表現の適正化(原岩組織、軟弱⇒軟質)	48.28	48.67	48.28~48.67m:原岩組織が残留した径10~20mmの岩片からなり、一部岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が分布するが、連続性は悪く短い。風化で割れ目は消滅しなかったものが多い。		記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
134	48.67	49.20	岩組織は残留するが、割れ目は消滅し、著しく軟化している。	48.67	49.20	原岩組織は残留するが、割れ目は消滅し、著しく軟質化している。		表現の適正化(原岩組織、軟質化)	48.67	49.20	48.67~49.20m:原岩組織は残留するが、割れ目は消滅する。		記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
135	49.20	49.91	破砕帯	49.20	49.91	破砕帯		用語の統一(破砕帯⇒破砕部)					
136	49.20	49.82	H ₁ 上端不明瞭、下端44"で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~30mmの岩組織が残留する岩片と、岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる粘土混じり岩片状で明褐色(7.5YR7.2)で、厚さは620mm(コア長)。	49.20	49.82	H ₁ 上端不明瞭、下端44"で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~30mmの岩組織が残留する岩片と、岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる粘土混じり岩片状で明褐色(7.5YR7.2)を呈する。φ1~2mm(コア長)の石英粒を少量含む軟弱な粘土で、 基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。		表現の適正化(混じり) 厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した。硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	49.20	49.82	●49.20~49.91m:破砕部 49.20~49.82m:粘土混じり岩片状部(H ₁) 上端不明瞭、下端44"で直線的でシャープに連続。径10~30mmの岩組織が残留する岩片と、岩片間を幅1~3mmで網状に分布する白色粘土脈からなる。明褐色を呈する。 49.82~49.84m:粘土状部(H ₀₋₁) 上端44"で直線的でシャープに、下端43"でやや波打ちながら連続。 49.84~49.91m:粘土混じり岩片状部(H ₁) 上端43"でやや波打ちながら連続。下端30"でやや不明瞭である。岩組織が消滅したものが大半の径2~20mmの花崗斑岩の岩片と岩片間の一部が軟質で白色粘土化する。明褐色を呈する。幅70mm。		硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
137	49.82	49.84	H ₀₋₁ (主せん断面・49.84m) 上端44"、下端43"で、上端は直線的でシャープに連続。下端はやや波打ちながら連続。φ1~2mmの石英粒を少量含む軟弱な粘土で、明褐色を呈する。厚さは10mm	49.82	49.84	H ₀₋₁ (最新活動面・49.82m)(上端の方が直線的) 上端44"、下端43"で、上端は直線的でシャープに連続。下端はやや波打ちながら連続。φ1~2mmの石英粒を少量含む軟弱な粘土で、明褐色を呈する。厚さは10mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。		上端の方が直線的であるため最新活動面の深度を変更した。最新活動面という用語に統一。表現の適正化(やや) 軟弱⇒軟質 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	49.20	49.91			
138	49.84	49.91	H ₁ φ2~20mmの大半が岩組織が消滅したG ₀ 岩片と岩片間の一部が軟弱な白色粘土化した粘土混じり岩片状で、明褐色を呈する。厚さは70mm。やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 上端43"、下端30"で、上端はやや波打ちながら連続。下端はやや不明瞭である。	49.84	49.91	H ₁ φ2~20mmの大半が岩組織が消滅したG ₀ 岩片と岩片間の一部が軟弱な白色粘土化した粘土混じり岩片状で、明褐色を呈する。厚さは70mm。やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 上端43"、下端30"で、上端はやや波打ちながら連続。下端はやや不明瞭である。		表現の適正化(混じり、軟弱⇒軟質) 補記の修正(色の記載漏れ) 硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 上端境界はやや波打っているため直線性を変更した					
139	49.91	50.77	一部でφ10~50mmの岩組織と割れ目が残留する硬さDの岩片を含むが、著しく軟化したものが主体。残留した割れ目は60~70°とこれに斜交する30~60°割れ目が主体で割れ目ぞいや岩片間が一部白色軟弱な粘土化する。	49.91	50.77	一部でφ10~50mmの原岩組織と割れ目が残留する硬さDの岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体。残留した割れ目は60~70°とこれに斜交する30~60°割れ目が主体で割れ目ぞいや岩片間が一部白色軟質に粘土化する。		補記の修正(の⇒に) 表現の適正化(原岩組織、軟質化、軟弱⇒軟質)	49.91	50.77	49.91~50.77m:一部で径10~50mmの原岩組織と割れ目が残留するやや軟弱な岩片を含むが、著しく軟質化したものが主体である。傾斜60~70°とこれに斜交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目ぞいや岩片間の一部が軟弱な白色粘土化する。		
140	50.70	50.77	上端50"、下端65"で、両者とも直線的でシャープに連続。下端の一部には幅1~3mmの軟弱な白色~灰赤色粘土脈を伴う。φ5~10mmの粘土化したG ₀ 岩片が主体で、岩片間には幅1~2mmの白色~灰黄色の軟弱粘土が分布する。粘土混じり岩片状で、明褐色を呈する。厚さ30~70mmと膨縮する。	50.70	50.77	上端50"、下端65"で、両者とも直線的でシャープに連続。下端の一部には幅1~3mmの軟弱な白色~灰赤色粘土脈を伴う。φ5~10mmの粘土化したG ₀ 岩片が主体で、岩片間には幅1~2mmの白色~灰黄色の軟弱粘土が分布する。粘土混じり岩片状の 変質部 で、明褐色を呈する。厚さ30~70mmと膨縮する。		粘土化した岩片状を呈するが、原岩組織は認められるため変質部と判断した。 表現の適正化(混じり、軟弱⇒軟質)	50.70	50.77	50.70~50.77m:上端50"、下端65"でともに直線的でシャープに連続。下端の一部には幅1~3mmの軟弱な白色~灰赤色粘土脈を伴う。径5~10mmの粘土化した花崗斑岩の岩片が主体で、岩片間には幅1~2mmの白~灰黄色の軟弱な粘土が分布する粘土混じり岩片状を呈する変質部である。明褐色を呈し、幅は30~70mmと膨縮する。		
141	50.77	51.69	φ5~10mmの岩片と粘土化した基質からなる。基質の一部に幅1~2mmの白色軟弱な粘土脈が短く分布する。	50.77	51.69	φ5~10mmの岩片と粘土化した基質からなる。基質の一部に幅1~2mmの白色軟弱な粘土脈が短く分布する。		表現の適正化(軟弱⇒軟質)	50.77	51.69	50.77~51.69m:径5~10mmの岩片と粘土化した基質からなる。基質の一部に幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈が短く分布する。		
142	-	-	-	50.80	50.88	褐色化が顕著である。		顕著な褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した	50.80	50.88	50.80~50.88m:褐色化が顕著である。		
143	51.12	51.24	約40°で珪質部が硬質で残留する。約10mm間隔で40°割れ目が発達する。	-	-	-			51.12	51.24	51.12~51.24m:傾斜約40°で珪質部が硬質で残留する。傾斜40°の割れ目が約10mm間隔で発達する。		
144	51.69	52.20	硬さ[D]でやや硬質となる。50~60°と、これに斜交する30~40°割れ目からなる。	51.69	52.20	硬さ[D]でやや硬質となる。50~60°と、これに斜交する30~40°割れ目が分布する。		表現の適正化(やや) 文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)	51.69	52.20	51.69~52.20m:傾斜50~60°と、これに斜交する傾斜30~40°の割れ目が見られる。		記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
145	52.20	53.77	著しく軟質化したφ5~20mm岩片からなり、岩組織はほぼ消滅している。部分的に岩片間を幅1~3mmの白色軟弱粘土脈が分布する。	52.20	53.77	著しく軟質化したφ5~20mm岩片からなり、原岩組織はほぼ消滅している。部分的に岩片間を幅1~3mmの白色軟弱粘土脈が分布する。		表現の適正化(原岩組織、ほぼ、軟弱⇒軟質)	52.20	53.77	52.20~53.77m:著しく軟質化した径5~20mmの岩片からなり、原岩組織はほぼ消滅する。部分的に岩片間に幅1~3mmの軟弱な白色粘土脈が分布する。		

H24-D1-1 53.77~54.54m

No.	コア観察カード		記事		記事		記事を削除・変更・追記した理由		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)				
	上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容					
			記事	記事	記事	記事									
			記事	記事	記事	記事									
			記事	記事	記事	記事									
146	53.77	54.54	破砕帯	破砕帯	破砕帯	破砕帯	用語の統一(破砕帯→破砕部)	53.77~53.78m: 粘土質礫状部(Hb) 53.77~53.78m: 粘土質礫状部(Hb) 上端65° 下端65° でともに直線的に連続。径1~8mmの石英粒や花崗斑岩の岩片主体で基質は黒褐色粘土からなる。幅5~10mm。 53.78~53.80m: 粘土状部(Hc-1) 上端65° 下端65° でともに直線的でシャープに連続。軟質。灰褐色を呈する。幅5~10mm。 53.80~53.90m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端65° で直線的にシャープに、下端65° でやや波打って連続。径1~4mmの石英粒と径10mm前後の粘土化した岩片を伴う粘土混じり岩片主体とし、基質は白色粘土からなる。幅100~160mm。 53.90~53.93m: 礫混じり粘土状部(Hc-2) 上端20° でやや波打って、下端25° で直線的にシャープに連続。ごく少量の径1~2mmの石英粒と径10mm程度の粘土化し扁平なレンズ状の花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄褐色を呈する。幅25~30mmで膨縮する。	53.77	54.54	破砕部	破砕部	破砕部	破砕部	●53.77~54.54m: 破砕部 53.77~53.78m: 粘土質礫状部(Hb) 上端65° 下端65° でともに直線的に連続。径1~8mmの石英粒や花崗斑岩の岩片主体で基質は黒褐色粘土からなる。幅5~10mm。 53.78~53.80m: 粘土状部(Hc-1) 上端65° 下端65° でともに直線的でシャープに連続。軟質。灰褐色を呈する。幅5~10mm。 53.80~53.90m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端65° で直線的にシャープに、下端65° でやや波打って連続。径1~4mmの石英粒と径10mm前後の粘土化した岩片を伴う粘土混じり岩片主体とし、基質は白色粘土からなる。幅100~160mm。 53.90~53.93m: 礫混じり粘土状部(Hc-2) 上端20° でやや波打って、下端25° で直線的にシャープに連続。ごく少量の径1~2mmの石英粒と径10mm程度の粘土化し扁平なレンズ状の花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄褐色を呈する。幅25~30mmで膨縮する。 53.93~54.06m: 粘土質礫状部(Hb) 上端25° 下端60° でともに直線的でシャープに連続。径1~5mmの石英粒と径5~10mmの粘土化し扁平なレンズ状の花崗斑岩の岩片を多く含む。にぶい黄褐色を呈する。幅100~160mm。 54.06~54.07m: 粘土状部(Hc-1) 上端60° で直線的にシャープに、下端64° で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒を含み、岩片は含まない。浅黄褐色を呈する。幅5~15mmで膨縮する。 54.07~54.45m: 粘土混じり礫状部(Hi) 上端64° で大きく波打ちながら、下端46° でほぼ直線的にシャープに連続し、下端では幅1~2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。54.35~54.40m間では径1~4mmの石英粒が30~35° で配列性を示す。54.38~54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄~灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)。 54.45~54.54m: 礫質砂状部(Hb) 上端46° 下端55° でともに直線的でシャープに連続。径1~3mmの石英粒と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。硬質。浅黄褐色を呈する。幅60~70mm
147	53.77	53.80	Hc-2(主せん断面:53.77m) 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。径1~3mmの石英粒と少量の、岩片は含まない軟質灰褐色粘土。厚さ15mm	Hc-2(主せん断面:53.77m) 上端65° 下端65° で、両者とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と少量の、岩片は含まない軟質灰褐色粘土。厚さ15mm	Hc-2(主せん断面:53.77m) 上端65° 下端65° で、両者とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と少量の、岩片は含まない軟質灰褐色粘土。厚さ15mm	Hc-2(主せん断面:53.77m) 上端65° 下端65° で、両者とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒と少量の、岩片は含まない軟質灰褐色粘土。厚さ15mm									
148	53.78	53.80	Hc-1 粘土状部 最新活動面 53.80m 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。軟質な灰褐色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅5~10mm。	Hc-1 粘土状部 最新活動面 53.80m 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。軟質な灰褐色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅5~10mm。	Hc-1 粘土状部 最新活動面 53.80m 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。軟質な灰褐色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅5~10mm。	Hc-1 粘土状部 最新活動面 53.80m 上端65° 下端65° で、両者とも直線的でシャープに連続。軟質な灰褐色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅5~10mm。									
149	53.80	53.90	Hi φ1~4mm石英粒とφ10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う粘土混じり岩片状で灰褐色を呈する。厚さ100~160mm 上端65° 下端20° で、上端は直線的でシャープ、下端はやや波打って連続。	Hi φ1~4mm石英粒とφ10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う粘土混じり岩片状で灰褐色を呈する。厚さ100~160mm 上端65° 下端20° で、上端は直線的でシャープ、下端はやや波打って連続。	Hi φ1~4mm石英粒とφ10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う粘土混じり岩片状で灰褐色を呈する。厚さ100~160mm 上端65° 下端20° で、上端は直線的でシャープ、下端はやや波打って連続。	Hi φ1~4mm石英粒とφ10mm前後の粘土化した岩片を主体とし、岩片間の一部に白色粘土を伴う粘土混じり岩片状で灰褐色を呈する。厚さ100~160mm 上端65° 下端20° で、上端は直線的でシャープ、下端はやや波打って連続。									
150	53.90	53.93	Hc-2 上端20° 下端25° で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。ごく少量のφ1~2mm石英粒とφ10mm程度の粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を含む。やや硬質な礫混じり粘土状。浅黄褐色を呈し、厚さ25~30mmで膨縮する。含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	Hc-2 上端20° 下端25° で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。ごく少量のφ1~2mm石英粒とφ10mm程度の粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を含む。やや硬質な礫混じり粘土状。浅黄褐色を呈し、厚さ25~30mmで膨縮する。含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	Hc-2 上端20° 下端25° で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。ごく少量のφ1~2mm石英粒とφ10mm程度の粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を含む。やや硬質な礫混じり粘土状。浅黄褐色を呈し、厚さ25~30mmで膨縮する。含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	Hc-2 上端20° 下端25° で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続。ごく少量のφ1~2mm石英粒とφ10mm程度の粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を含む。やや硬質な礫混じり粘土状。浅黄褐色を呈し、厚さ25~30mmで膨縮する。含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									
151	53.93	54.06	Hb 上端25° 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~5mm石英粒とφ5~10mmの粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を多く含む。硬質。浅黄褐色を呈する。厚さ100~160mm	Hb 上端25° 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~5mm石英粒とφ5~10mmの粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を多く含む。硬質。浅黄褐色を呈する。厚さ100~160mm	Hb 上端25° 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~5mm石英粒とφ5~10mmの粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を多く含む。硬質。浅黄褐色を呈する。厚さ100~160mm	Hb 上端25° 下端60° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~5mm石英粒とφ5~10mmの粘土化し扁平なレンズ状のQp岩片を多く含む。硬質。浅黄褐色を呈する。厚さ100~160mm									
152	54.06	54.07	Hc-1 上端60° 下端64° で、上端は直線的でシャープに連続。下端は大きく波打ちながら連続。φ1~2mmの石英粒を含み、岩片は含まない。浅黄褐色のやや硬質な粘土。厚さは5~15mmと膨縮する。	Hc-1 上端60° 下端64° で、上端は直線的でシャープに連続。下端は大きく波打ちながら連続。φ1~2mmの石英粒を含み、岩片は含まない。浅黄褐色のやや硬質な粘土。厚さは5~15mmと膨縮する。	Hc-1 上端60° 下端64° で、上端は直線的でシャープに連続。下端は大きく波打ちながら連続。φ1~2mmの石英粒を含み、岩片は含まない。浅黄褐色のやや硬質な粘土。厚さは5~15mmと膨縮する。	Hc-1 上端60° 下端64° で、上端は直線的でシャープに連続。下端は大きく波打ちながら連続。φ1~2mmの石英粒を含み、岩片は含まない。浅黄褐色のやや硬質な粘土。厚さは5~15mmと膨縮する。									
153	54.07	54.45	Hi 上端64° 下端46° で、上端は大きく波打ちながら、下端はほぼ直線的でシャープに連続し、下端では幅1~2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。 54.35~54.40m間ではφ1~4mm石英粒が30~35° で配列性を示す。 下層側の54.38~54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄~灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)	Hi 上端64° 下端46° で、上端は大きく波打ちながら、下端はほぼ直線的でシャープに連続し、下端では幅1~2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。 54.35~54.40m間ではφ1~4mm石英粒が30~35° で配列性を示す。 下層側の54.38~54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄~灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)	Hi 上端64° 下端46° で、上端は大きく波打ちながら、下端はほぼ直線的でシャープに連続し、下端では幅1~2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。 54.35~54.40m間ではφ1~4mm石英粒が30~35° で配列性を示す。 下層側の54.38~54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄~灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)	Hi 上端64° 下端46° で、上端は大きく波打ちながら、下端はほぼ直線的でシャープに連続し、下端では幅1~2mmの白色軟質粘土を伴う。全体が粘土化で著しく軟化しており、岩片境界はほとんどが不明瞭。 54.35~54.40m間ではφ1~4mm石英粒が30~35° で配列性を示す。 下層側の54.38~54.45mはマンガン鉱染をうけ、灰黄褐色を呈する。全体の色調は灰黄~灰黄褐色である。厚さは190mm(60°)									
154	54.45	54.54	Hb 上端46° 下端55° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~3mmの石英粒とφ5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。硬質砂状部でやや硬質である。浅黄褐色を呈する。厚さ60~70mm 含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hb 上端46° 下端55° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~3mmの石英粒とφ5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。硬質砂状部でやや硬質である。浅黄褐色を呈する。厚さ60~70mm 含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hb 上端46° 下端55° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~3mmの石英粒とφ5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。硬質砂状部でやや硬質である。浅黄褐色を呈する。厚さ60~70mm 含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hb 上端46° 下端55° で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~3mmの石英粒とφ5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。硬質砂状部でやや硬質である。浅黄褐色を呈する。厚さ60~70mm 含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									

H24-D1-1 53.77~58.62m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
155	53.77	53.78	(破砕度区分欄)Hc-2	53.77	53.78	(破砕度区分欄)Hb	53.77	53.78	(破砕度区分)Hb	-
156	53.78	53.80	(破砕度区分欄)Hc-2	53.78	53.80	(破砕度区分欄)Hc-1	53.78	53.80	(破砕度区分)Hc-1	-
157	54.06	54.07	(資質欄)4ランク	54.06	54.07	(資質欄)3ランク	54.06	54.07	(資質欄)3ランク	-
158	54.45	54.54	(資質欄)4ランク	54.45	54.54	(資質欄)3ランク	54.45	54.54	(資質欄)3ランク	-
159	54.54	56.11	φ5~10mmと大型な石英斑晶を多く含み、全体に珪質でコアを硬さ「C」と硬質になる。60~70°とこれに交差する40~60°の割れ目が主体で、割れ目ごとに砂状~細片状化する部分がある。	54.54	56.11	φ5~10mmと大型な石英斑晶を多く含み、全体に珪質でコアを硬さ「C」と硬質になる。60~70°とこれに交差する40~60°の割れ目が主体で、割れ目ごとに砂状~細片状化する部分がある。	54.54	56.11	54.54~56.11m: 径5~10mmの大型な石英斑晶を多く含み、全体に珪質である。傾斜60~70°とこれに交差する傾斜40~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状~細片化する部分がある。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
160	55.52	55.80	60°と40°の割れ目が交差し、交差部周辺はφ3~5mmに細片化する。岩片自身は硬く、粘土化などの劣化はない。	-	-	-	55.52	55.80	55.52~55.80m: 傾斜60°と40°の割れ目が交差し、交差部周辺は径3~5mmに細片化する。岩片自身は硬く、粘土化などの劣化はない。	-
161	56.11	56.48	硬さDと、上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟弱白色粘土層が分布するが、粘土層の分布は少ない。	56.11	56.48	硬さDと、上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟弱白色粘土層が分布する。が、粘土層の分布は少ない。	56.11	56.48	56.11~56.48m: 上下に比べ軟質となり、割れ目は消滅しかかっている。一部幅1mmの軟弱白色粘土層が分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
162	56.48	56.90	全体に珪質のための硬質で、50~60°の割れ目~低密着割れ目が概ね10~30mm間隔で平行に分布する。粘土層などは分布しない。	-	-	-	56.48	56.90	56.48~56.90m: 全体に珪質のための硬質で、傾斜50~60°の割れ目や低密着割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。粘土層などは分布しない。	-
163	56.90	57.13	割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着する。割れ目ぞい砂状~細片状化する。	56.90	57.13	割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着する。割れ目ぞい砂状~細片状化する。	56.90	57.13	56.90~57.13m: 割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土が付着する。割れ目沿いに砂状~細片化する。	-
164	57.13	58.96	著しく軟質化し、岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布することが多い。	57.13	58.96	著しく軟質化し、岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布することが多い。	57.13	58.96	57.13~58.96m: 著しく軟質化し、原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布することが多い。	-
165	58.00	58.00	70°、割れ目に幅2~3mmの軟弱な淡緑色を帯びる灰白色(7.5Y 8/2)粘土層をはさむ。	58.00	58.00	70°、割れ目に幅2~3mmの軟弱な淡緑色を帯びる灰白色(7.5Y 8/2)粘土層を挟む。	58.00	58.00	58.00m: 傾斜70°で幅2~3mmの軟弱な淡緑色を帯びる灰白色粘土層を挟む。	-
166	58.62	58.62	75°で幅2~10mmの軟弱粘土層がφ5mm前後の粘土化岩片を混えながら、やや波打って連続する。	58.62	58.62	75°で幅2~10mmの軟弱白色粘土層がφ5mm前後の粘土化岩片を混えながら、やや波打って連続する。	58.62	58.62	58.62m: 傾斜75°で幅2~10mmの軟弱な白色粘土層が径5mm前後の粘土化岩片を含み、やや波打って連続する。	-

H24-D1-1 58.96~60.11m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
167	58.96	59.30	破砕帯(K断層)	58.96	59.30	破砕帯(K断層)	用語の統一(破砕帯→破砕部) 断層名は詳細であるため削除した					
168	58.96	59.05	H 上端50°、下端45°で、上端は不明瞭、下端は直線的でシャープに連続。幅1mm軟弱白色粘土層と全体が粘土化のため軟化が進む粘り岩片状を呈する。明褐色で厚さ3mm(45°)	58.96	59.05	H 上端50°、下端45°で、上端は不明瞭、下端は直線的でシャープに連続。幅1mm軟弱白色粘土層と全体が粘土化のため軟化が進む粘り岩片状を呈する。明褐色で厚さ3mm(45°) やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	表現の適正化(軟弱⇒軟質、軟質化、湿り) 硬軟、細粒部の連続性、直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した					
169	59.05	59.16	Hb 上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~2mm石英粒とφ5mm前後の粘土化した岩片を多く含む硬質粘土で、粘土はやや締っている。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。色調は淡黄色で厚さは80mm。	59.05	59.16	Hb 粘土質硬状破砕部 上端45°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~2mm石英粒とφ5mm前後の粘土化した岩片を多く含む硬質粘土で、粘土はやや締っている。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。色調は淡黄色で厚さは80mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した 表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) 傾記の修正(含む⇒含む) 表現の統一(硬質⇒硬質) 細粒部の連続性、直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	58.96	59.30	●58.96~59.30m 破砕部 58.96~59.05m 粘土混じり岩片状部(H) 上端50°で不明瞭、下端45°で直線的にシャープに連続。幅1mmの軟弱白色粘土層を伴う全体が粘土化して軟質化している。明褐色を呈する。幅3mm(45°)。 59.05~59.16m 粘土質硬状部(Hb) 上端45°で直線的にシャープに、下端40°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染により斑点状に暗褐色化する。淡黄色を呈する。幅80mm。 59.16~59.18m 粘土状部(Hc-1) 上端40°でやや波打ち、下端35°で一部凸部があるが、直線的にシャープに連続。径1mm程度の石英粒、長石粒を含み、岩片は殆んど含まない。軟質、灰赤~灰白色を呈する。幅5~14mmで下端が凸部をなすため膨脹する。 59.18~59.30m 粘土質硬状部(Hb) 上端35°で一部凸部があり、下端50°でやや波打ちながら連続。下端には幅5~10mmの軟質な灰白~灰赤色粘土を伴う。全体的には径1~5mmの石英粒、径5~10mmの粘土化した花崗岩の岩片を多量に含む。やや軟質、灰黄~橙色を呈する。幅90~170mm。		
170	59.16	59.18	Hc-1(せん断面・59.16m) 上端40°、下端35°で、上端はやや波打ち、下端は途中で凸部をもちながら直線的でシャープに連続。φ1mm程度の石英粒、長石粒を含み岩片は殆んど含まない軟弱な粘土で、灰赤~灰白色を呈する。厚さは5~14mmと下端が凸部をなすため膨脹する。	59.16	59.18	Hc-1(最新活動面 59.16m) 上端40°、下端35°で、上端はやや波打ち、下端は途中で凸部をもちながら直線的でシャープに連続。φ1mm程度の石英粒、長石粒を含み岩片は殆んど含まない軟弱な粘土で、灰赤~灰白色を呈する。厚さは5~14mmと下端が凸部をなすため膨脹する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	最新活動面という用語に統一 表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した					
171	59.18	59.30	Hb 上端35°、下端50°で、上端で凸部をもちながら、下端部はやや波打ちながら連続。下端部は厚さ5~10mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土である。全体的には、φ1~5mmの石英粒、φ5~10mmの粘土化したGpを多量に含む硬質粘土で粘土は締っている。灰黄~橙色を呈し、厚さ90~170mm。	59.18	59.30	Hb 粘土質硬状破砕部 上端35°、下端50°で、上端で凸部をもちながら、下端部はやや波打ちながら連続。下端部は厚さ5~10mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土である。全体的には、φ1~5mmの石英粒、φ5~10mmの粘土化したGpを多量に含む硬質粘土でやや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 灰黄~橙色を呈し、厚さ90~170mm。	岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した 表現の適正化(やや、軟質⇒軟質) 傾記の修正(Gp⇒Gp岩片) 粘土化が進んでいるため硬軟を変更した 細粒部の連続性、直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した					
172	59.30	59.62	70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体であるが、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。	59.30	59.62	70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体であるが、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。	表現の適正化(軟弱⇒軟質)	59.30	59.62	59.30~59.62m:傾斜70~80°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体で、大半が消滅しかかっている。一部の割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層が分布する。		
173	59.33	59.33	他の割れ目を切るせん断面。0~3mm、黒褐(7.5YR 3/3)の砂質粘土をはさむ。	59.33	59.33	他の割れ目を切るせん断面。幅0~3mmの黒褐色(7.5YR 3/3)のマンガン汚染砂質粘土を挟む割れ目。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	表現の統一(せん断面) 0~3mmについて、幅であることを追記した 砂質粘土ではなくマンガン汚染であることを変更した 割れ目は凹凸があるが、その噛み合わせは良い 表現の適正化(割れ目の追加、挟む) 傾記の修正(色の記載漏れ) 割れ目周辺の状況について追記した 上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して他の割れ目を切るせん断面を削除した	59.33	59.33	59.33m:幅0~3mmの黒褐色のマンガン汚染を挟む割れ目存在で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
174	59.62	59.98	硬さDと上位より硬くなるが、割れ目沿いに風化が進み、砂状~細片状化している。59.95m~80°、幅0.5mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	59.62	59.98	硬さDと上位より硬くなるが、割れ目沿いに風化が進み、砂状~細片状化している。59.95m~80°、幅0.5mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	表現の適正化(沿い、ほぼ、軟弱⇒軟質、細片状化⇒細片化)	59.62	59.98	59.62~59.98m:割れ目沿いに風化が進み、砂状~細片化する。59.95mに傾斜80°で幅0.5mmの軟弱な白色粘土層がほぼ直線でシャープに分布する。		
175	59.98	60.11	全体が軟化著しくなる。60.09m~70°、幅0.5~1mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	59.98	60.11	全体が軟化著しくなる。60.09m~70°、幅0.5~1mmの白色軟弱粘土層がほぼ直線でシャープに分布。	表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質、ほぼ)	59.98	60.11	59.98~60.11m:全体が著しく軟化著しくなる。60.09mに傾斜70°で幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土層がほぼ直線でシャープに分布する。		

H24-D1-1 60.12~67.43m

No.	コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事					
	記事				記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)				記事を削除・変更・追記した理由					
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか?		上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか?		上端深度	下端深度	選定した記事内容			
			破砕帯Hb(G断層 主せん断面・60.12m)			破砕帯Hb(G断層-最新活動面 60.12m)								
176				60.12	60.15			・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・断層名は詳細であるため削除した ・最新活動面という用語に統一 ・破砕度区分を見直したため削除した						
177	60.12	60.15	上端40°、下端45°で、上端はほぼ直線的でシャープに、下端はやや波打ちながら連続。上端には幅1mmの明赤灰色軟弱粘土を伴う。0.1~2mm石英粒と5mm前後の粘土化したGo岩片を多く含む軟弱な硬質粘土と灰白~にぶい黄色を呈する。厚さは20~30mm。	60.12	60.13	Hc-1 粘土状破砕部 上端40°、下端40°で上端はほぼ直線的でシャープ、下端は波打って連続。 上端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化したGo岩片をわずかに含む。軟質な灰白色粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅1~10mmと認められる。			60.12	60.15	●60.12~60.15m:破砕部 60.12~60.13m:粘土状部(Hc-1) 上端40°、下端45°でほぼ直線的にシャープに、下端40°で波打って連続。上端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径1~2mmの石英粒と径5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片をわずかに含む。軟質。灰白色を呈する。幅1~10mmと認められる。 60.13~60.15m:粘土混じり硬状部(Hg) 上端40°、下端45°でともに波打って連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土を伴う。にぶい黄色を呈する。幅5~30mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すとし、柱状図には記載しない。
178				60.13	60.15	Hg 粘土混じり硬状破砕部 上端40°、下端45°でいずれも波打って連続。下端に幅1mmの明赤灰色粘土を伴う。径5~10mmのGo岩片主体で岩片間に幅0.5mmの灰白色粘土を伴う。軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅5~30mm、にぶい黄色を呈する。			60.13~60.15m間は岩片主体であるため粘土混じり硬状部に変更した ・上端境界、幅、色調、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した					
179	60.12	60.13	(破砕度区分)Hb	60.12	60.13	(破砕度区分)Hc-1			上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	60.12	60.13	(破砕度区分)Hc-1		
180	60.13	60.15	(破砕度区分)Hb	60.13	60.15	(破砕度区分)Hg			上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	60.13	60.15	(破砕度区分)Hg		
181	60.15	60.84	著しく軟化し、割れ目はほぼ消滅している。原岩組織は残留している。径々、幅1~2mmの軟質な白色粘土層が分布する。60.46m~60°、割れ目ぞい(半分以上が消えかかると)に幅10mm程度がマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	60.15	60.84	著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅している。原岩組織は残留している。所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土層が分布する。60.46m~60°、割れ目ぞい(半分以上が消えかかると)に幅10mm程度がマンガン鉱染を受け黒褐色化する。			・表現の適正化(軟質化、ほぼ、原岩組織、所々、軟弱⇒軟質、沿い)	60.15	60.84	60.15~60.84m:著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は残留する。所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土層が分布する。60.46mに傾斜60°の消えかかった割れ目ぞいに幅10mm程度がマンガン鉱染を受け黒褐色化する。		
182	60.84	62.64	40~60°割れ目とこれに斜交~直交する30~60°割れ目が主体で、割れ目ぞいは薄く砂状化するものが多い。軟弱な粘土層は分布しない。	60.84	62.64	40~60°割れ目とこれに斜交~直交する30~60°割れ目が主体で、割れ目ぞいは薄く砂状化するものが多い。軟質な粘土層は分布しない。			・表現の適正化(沿い、軟弱⇒軟質)	60.84	62.64	60.84~62.64m:傾斜40~60°の割れ目とこれに斜交~直交する30~60°の割れ目が主体で、割れ目ぞいは薄く砂状化するものが多い。軟質な粘土層は分布しない。		
183	-	-	-	61.49	61.52	不規則な形状で硬混じり粘土状部を挟む。マンガン汚染を受けて黒褐色を呈する。			・硬混じり粘土状部は周囲と異なる状況であるため追記した	61.49	61.52	61.49~61.52m:不規則な形状で硬混じり粘土状部を挟む。マンガン汚染を受けて黒褐色を呈する。		
184	61.76	61.80	φ2~10mmと細かい破砕された角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。	61.76	61.80	φ2~10mmの細かい角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。			・「破記の修正」との ・マンガン汚染により硬状化しているだけで破砕を受けているわけではないため「破砕された」を削除した	61.76	61.80	61.76~61.80m:径2~10mmの角礫と粘土基質で、基質はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。上下端は凹凸があり、直線的なシャープさはない。		
185	62.64	63.00	硬さと硬質となる。60°割れ目が主体で粘土層は分布しない。	-	-	-				62.64	63.00	62.64~63.00m:傾斜60°の割れ目が主体で、粘土層は分布しない。		・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
186	62.64	63.00	(コアの形状欄)Vランク	62.64	63.00	(コアの形状欄)IVランク			・断面に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	62.64	63.00	(コアの形状欄)IVランク		
187	63.00	63.39	40~60°とこれに斜交~直交する20~30°割れ目が主体。粘土層は分布しない。割れ目ぞいは薄く砂状化する。	63.00	63.39	40~60°とこれに斜交~直交する20~30°割れ目が主体。粘土層は分布しない。割れ目ぞいは薄く砂状化する。			・表現の適正化(沿い)	63.00	63.39	63.00~63.39m:傾斜40~60°とこれに斜交~直交する20~30°の割れ目が主体で、粘土層は分布しない。割れ目ぞいは薄く砂状化する。		
188	63.39	65.69	互いに斜交~直交する40~60°の割れ目が主体で、硬質(硬さ「C」)。65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目ぞいの薄く砂状化も認められなくなる。粘土層は殆んど分布せず硬質も弱い。	63.39	65.69	互いに斜交~直交する40~60°の割れ目が主体で、硬質(硬さ「C」)。65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目ぞいの薄く砂状化も認められなくなる。粘土層は殆んど分布せず硬質も弱い。			・表現の適正化(沿い)	63.39	65.69	63.39~65.69m:互いに斜交~直交する傾斜40~60°の割れ目が主体で、65.44m以深では風化も弱くなり、割れ目ぞいの薄く砂状化も認められなくなる。粘土層は殆んど分布せず硬質も弱い。		・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
189	65.69	67.43	硬質で上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以深では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度。66.49m以深では硬質であるが割れ目周辺まで風化が及び淡褐色化(にぶい黄褐色)する。硬質は全区間で弱く、粘土化部や粘土層はわずかに分布するにすぎない。	65.69	67.43	硬質で上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以深では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度。66.49m以深では硬質であるが割れ目周辺まで風化が及び淡褐色化(にぶい黄褐色)する。硬質は全区間で弱く、粘土化部や粘土層はわずかに分布するにすぎない。 割れ目は20~40°とこれに斜交~直交する50~70°が主体である。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。			・表現の適正化(伴う、軟質化)	65.69	67.43	65.69~67.43m:上位に比べ割れ目は少ない。風化は66.49m以深では割れ目の面がごく薄く風化褐色化する程度で、66.49m以深では割れ目周辺まで風化が及び淡褐色化する。粘土化部や粘土層がわずかに分布する。傾斜20~40°とこれに斜交~直交する50~70°の割れ目が主体で、割れ目の一部はマンガン鉱染を受け、面は黒褐色化するが、軟質化は伴わない。		・記事欄以外から読み取れる硬さ、硬質、色調の情報は記載しない

H24-D1-1 65.44~68.84m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
190	65.44	67.43	(割れ目状態欄)αランク	65.44	67.43	(割れ目状態欄)βランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをβランクに変更した	65.44	67.43	(割れ目状態欄)βランク	-
191	65.69	67.43	(岩級区分欄)CL	65.69	67.43	(岩級区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	65.69	67.43	(岩級区分欄)CM	-
192	66.10	66.65	φ2~5mmの白濁した長石斑晶が多く分布。	-	-	-		66.10	66.65	66.10~66.65m:傾斜2~5mmの白濁した長石斑晶が多く分布する。	-
193	66.49	67.43	(風化欄)αランク	66.49	67.43	(風化欄)γランク	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをγランクに変更した	66.49	67.43	(風化欄)γランク	-
194	67.08	67.22	φ5~10mmと大型の石英斑晶が多く分布。	-	-	-		67.08	67.22	67.08~67.22m:径5~10mmの大型な石英斑晶が多く分布する。	-
195	67.43	67.70	硬質であるが、上位よりも割れ目~低密着割れ目が多くなる。	-	-	-		67.43	67.70	67.43~67.70m:上位よりも割れ目や低密着割れ目が多くなる。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
196	67.55	67.55	65°、割れ目に幅0.5mmの軟弱な白色粘土脈が分布。これ以外には粘土脈や粘土化部は分布しない。	67.55	67.55	65°、割れ目に幅0.5mmの軟弱な白色粘土脈が分布。これ以外には粘土脈や粘土化部は分布しない。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質) ・文章の適正化(該当深度以外の記載は削除した)	67.55	67.55	67.55m:傾斜65°で幅0.5mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。	-
197	67.70	68.32	上位に比べやや軟化した硬さ「D」である。割れ目は互いに交差する40~50°が主体で、一部に幅0.5~1mmの浅黄色粘土脈をはさむ。	67.70	68.32	上位に比べやや軟化した硬さ「D」である。割れ目は互いに交差する40~50°が主体で、一部に幅0.5~1mmの浅黄色粘土脈を挟む。	・表現の適正化(やや、挟む)	67.70	68.32	67.70~68.32m:傾斜40~50°の互いに交差する割れ目が主体で、一部に幅0.5~1mmの浅黄色粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
198	67.78	67.85	上下端60°割れ目にはさまれて全体がやや軟化するが粘土化は伴わない。	67.78	67.85	上下端60°割れ目に挟まれて全体がやや軟化するが粘土化は伴わない。	・表現の適正化(挟む、やや、軟質化、伴う)	67.78	67.85	67.78~67.85m:上下端60°の割れ目に挟まれて、やや軟質化するが、粘土化は伴わない。	-
199	68.32	68.52	幅1~3mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土脈が網状に分布し、全体が軟化著しくなる。	68.32	68.52	幅1~3mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土脈が網状に分布し、全体が軟化著しくなる。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、軟質化)	68.32	68.52	68.32~68.52m:軟質化が著しく、幅1~3mmの軟弱な灰白~灰赤色粘土脈が網状に分布する。	-
200	68.52	68.52	70°で幅2~5mmの軟弱な白色~明黄色(10YR 6/6)粘土をはさむせん断性割れ目でやや波打って連続する。	68.52	68.52	70°で幅2~5mmの軟弱な白色~明黄色(10YR 6/6)粘土を挟むせん断性割れ目でやや波打って連続性・直線性に乏しい、連続する。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	・表現の適正化(挟む、やや、軟弱⇒軟質) ・割れ目は不連続で直線的ではないためその旨を追記した ・割れ目は凹凸があるが、その噛み合わせは良い ・割れ目周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	68.52	68.52	68.52m:傾斜70°で幅2~5mmの軟弱な白~明黄色粘土を挟む割れ目でやや波打って連続性・直線性に乏しい。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	-
201	68.52	68.84	全体に粘土化が進み軟化著しい。68.93m以浅では幅1~3mmの軟弱な白色粘土が網状に分布。	68.52	68.84	全体に粘土化が進み軟化著しい。白色粘土が網目状に分布する。 68.93m以浅では幅1~3mmの軟弱な白色粘土が網状に分布。	・網目状の粘土の分布は周囲と異なる状況であるため追記した ・68.93mは当該区間外の記事のため削除した。68.93mの記事に記載した ・表現の適正化(軟質化)	68.52	68.84	68.52~68.84m:全体に粘土化が進み軟化著しい。白色粘土が網目状に分布する。	-

H24-D1-1 68.84~69.97m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
202	68.84	69.00	破砕帯	68.84	69.00	破砕帯	用語の統一(破砕帯→破砕部)			●68.84~69.00m:破砕部 68.84~68.93m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°で不明瞭。下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐色~灰白色を呈する。幅32mm。 68.93~68.99m:粘土質礫状部(Hb) 上端55°。下端50°でともやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン染色を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色。厚さ20~30mm。 68.99~69.00m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°。下端45°でともやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈。厚さ32~35mm。灰褐色を呈する。幅32~35mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
203	68.84	68.93	H 上端50°。下端55°で、上端は不明瞭。下端はやや波打って連続。φ5~10mm粘土化岩片主体の粘土混じり岩片状。明灰褐色~灰白色を呈する。厚さ32mm。 幅1~3mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 軟質~やや軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	68.84	68.93	H 上端50°。下端55°で、上端は不明瞭。下端はやや波打って連続。φ5~10mm粘土化岩片主体の粘土混じり岩片状。明灰褐色~灰白色を呈する。厚さ32mm。 幅1~3mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 軟質~やや軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(やや、混じり、量する) ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
204	68.93	68.95	Hb(主せん断面・68.93m) 上端55°。下端50°で、両者ともやや波打って連続。φ5~18mmの粘土化した岩片を多く含む硬質粘土でやや締る。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン染色を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色。厚さ20~30mm。	68.93	68.95	Hb(最新活動面・68.93m) 上端55°。下端50°で、両者ともやや波打って連続。φ5~18mmの粘土化した岩片を多く含む粘土質礫状部でやや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン染色を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色。厚さ20~30mm。 含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(やや) ・岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の統一(締まった→硬質) ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	68.84	69.00		
205	68.95	69.00	H 上端50°。下端45°で、両者ともやや波打って連続。φ5~10mmの粘土化した岩片が主体の粘土混じり岩片状。下端は2mmの硬質な淡褐色粘土脈。厚さ32~35mm。灰褐色を呈する。	68.95	69.00	H 上端50°。下端45°で、両者ともやや波打って連続。φ5~10mmの粘土化した岩片が主体の粘土混じり岩片状。下端は幅2mmの硬質な淡褐色粘土脈。厚さ32~35mm。灰褐色を呈する。 軟質~やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(やや、混じり) ・振配の修正(「幅」の記載漏れ) ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
206	68.84	68.93	(破砕度区分)Hb	68.84	68.93	(破砕度区分)H	・振配の修正(Hb⇒H)	68.84	68.93	(破砕度区分)H	-
207	68.95	69.00	(破砕度区分)Hb	68.95	69.00	(破砕度区分)H	・振配の修正(Hb⇒H)	68.95	69.00	(破砕度区分)H	-
208	69.00	69.73	大半は割れ目は消滅するが、69.42m・68°、69.67m・70°で直線的でシャープな割れ目が残留。	-	-	-		69.00	69.73	69.00~69.73m:大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残留する。	-
209	69.06	69.18	60~80°、幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続。	-	-	-		69.06	69.18	69.06~69.18m:傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。	-
210	69.73	71.21	上位よりも硬さDと硬くなり、大半の割れ目が残留している。割れ目は10~30°と、これに斜交~直交する50~80°が主体で割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	69.73	71.21	上位よりも硬さDと硬くなり、大半の割れ目が残留している。割れ目は10~30°と、これに斜交~直交する50~80°が主体で割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	・表現の適正化(治い)	69.73	71.21	69.73~71.21m:大半の割れ目が残留し、傾斜10~30°と、これに斜交~直交する50~80°の割れ目が主体で、割れ目ぞいに薄く砂状化することが多い。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
211	69.79	69.93	(コアの硬さ)Dランク	69.79	69.93	(コアの硬さ)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	69.79	69.93	(コアの硬さ)Cランク	-
212	70.10	70.40	割れ目はほぼ消滅している。粘土化部は粘土脈の分布は少ない。	70.10	70.40	割れ目はほぼ消滅している。粘土化部は粘土脈の分布は少ない。	・表現の適正化(ほぼ) ・振配の修正(「粘土化部」は不要のため削除)	70.10	70.40	70.10~70.40m:割れ目はほぼ消滅する。粘土脈の分布は少ない。	-
213	69.89	69.97	69.89m・50°と69.97m・65°はせん断性割れ目で、いずれも交差する割れ目を切り、変位量は前者で10mm右ズレ、後者で3~4mm右ズレ。	69.89	69.97	69.89m、50°と69.97m、65°の割れ目で、前者は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。後者は交差する割れ目を止めている。せん断性割れ目でも、いずれも交差する割れ目を切り、変位量は前者で10mm右ズレ、後者で3~4mm右ズレ。両者とも挟在物はなく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・69.89mの割れ目は面の凹凸が顕著であるが、そのかみ合わせが良い。69.97mの割れ目と交差する割れ目のズレに系統性が見られない。以上のことから、「切り」を「止めている」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	69.89	69.97	69.89m・50°の割れ目は面の凹凸が著しいが、そのかみ合わせは良い。69.97m・65°の割れ目は交差する割れ目を止めている。両者とも挟在物はなく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H24-D1-1 71.21~78.77m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更しないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			適正化した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
214	71.21	71.35	著しく軟化した硬さ「E」で、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残留している。幅1~2mmの白色軟質粘土層が約40~60°で同方向に分布する。上端側では、マンガン染染で黒褐色化する。	71.21	71.35	著しく軟化した硬さ「E」で、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残留している。幅1~2mmの白色軟質粘土層が約40~60°で同方向に分布する。上端側では、マンガン染染で黒褐色化する。	71.21	71.35	71.21~71.35m:著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅するが、原岩組織は大半が残留する。幅1~2mmの軟質な白色粘土層が傾斜40~60°で平行に分布する。上端側はマンガン染染で黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
215	71.35	74.28	上位よりも硬くなる(硬さ「D」)。割れ目は20~40°と、これに斜交~直交する40~70°割れ目が主体で、一部の割れ目では、割れ目ぞいに薄く砂状化~φ5mmに細片化する。粘土化部の粘土層の分布は少ないが、73.40m以深では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟弱な灰白色~白色粘土層をはさむ。	71.35	74.28	上位よりも硬くなる(硬さ「D」)。割れ目は20~40°と、これに斜交~直交する40~70°割れ目が主体で、一部の割れ目では、割れ目ぞいに薄く砂状化~φ5mmに細片化する。粘土化部の粘土層の分布は少ないが、73.40m以深では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟弱な灰白色~白色粘土層を挟む。	71.35	74.28	71.35~74.28m:傾斜20~40°と、これに斜交~直交する傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部は、割れ目ぞいに薄く砂状化~径5mmに細片化する。粘土層の分布は少ないが、73.40m以深では、割れ目の一部に幅1~8mmで軟弱な灰白~白色粘土層を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
216	74.04	-	74.04m以深では40°割れ目ぞいに幅10~40mmでφ5mm前後の細片状を呈する。岩片間の一部にφ10mm前後の斑点状に白色粘土化部を伴う。	74.04	-	74.04m以深では40°割れ目ぞいに幅10~40mmでφ5mm前後の細片状を呈する。岩片間の一部にφ10mm前後の斑点状に白色粘土化部を伴う。	74.04	-	74.04m以深では傾斜40°の割れ目ぞいに幅10~40mmで径5mm前後の細片状を呈する。岩片間の一部に径10mm前後の斑点状に白色粘土化部を伴う。	-
217	74.28	75.50	著しく軟化した硬さ「E」で、幅1~5mmの軟弱な白色~灰赤色粘土層が50~80°で多数分布する。大半の粘土層は湾曲したり波打ったりしてシャープな直線性は示さないが、74.48m・55°では幅0~4mmの軟弱な灰赤色粘土をはさみせん断性割れ目である。	74.28	75.50	著しく軟化した硬さ「E」で、幅1~5mmの軟弱な白色~灰赤色粘土層が50~80°で多数分布する。大半の粘土層は湾曲したり波打ったりしてシャープな直線性は示さないが、74.48m・55°では幅0~4mmの軟弱な灰赤色粘土を不連続に挟むせん断性割れ目である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	74.28	75.50	74.28~75.50m:著しく軟質化し、幅1~5mmの軟弱な白~灰赤色粘土層が傾斜50~80°で多数分布する。大半の粘土層は湾曲したり波打ったりしてシャープな直線性は示さないが、74.48mの割れ目を横断する石英斑晶が見られる。割れ目周辺の状況について追記した。上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
218	-	-	-	74.70	75.50	傾斜80°以上の高角度割れ目が多く、灰白色粘土を伴う。	74.70	75.50	74.70~75.50m:傾斜80°以上の高角度割れ目が多く、灰白色粘土を伴う。	-
219	75.10	75.50	幅1~5mm軟弱な白色粘土層が網状に分布する。	75.10	75.50	幅1~5mm軟弱な白色粘土層が網状に分布する。	75.10	75.50	75.10~75.50m:幅1~5mmの軟弱な白色粘土層が網状に分布する。	-
220	75.50	77.75	硬さ「D」主体であるが、更に硬質な硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。10~30°割れ目と底密着割れ目が主体で、これらに50~70°割れ目と底密着割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部は砂状化し、割れ目の一部には幅1mm前後の軟弱な白色粘土層をはさむ。粘土化で白濁したφ2~5mmの長石斑晶が多い。	75.50	77.75	硬さ「D」主体であるが、更に硬質な硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。10~30°割れ目と底密着割れ目が主体で、これらに50~70°割れ目と底密着割れ目が斜交~直交する。割れ目の一部は砂状化し、割れ目の一部には幅1mm前後の軟弱な白色粘土層を挟む。粘土化で白濁したφ2~5mmの長石斑晶が多い。	75.50	77.75	75.50~77.75m:やや硬質な岩片も多く含む。傾斜10~30°が主体で、これらと斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目と底密着割れ目が分布する。割れ目の一部は砂状化し、一部には幅1mm前後の軟弱な白色粘土層を挟む。粘土化で白濁した径2~5mmの長石斑晶が多い。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
221	77.10	77.25	一部で軟弱な白色粘土がφ2~3mm斑点状~幅1mmの脈状で分布し、区間全体も上下に比べ軟化する。	77.10	77.25	一部で軟弱な白色粘土がφ2~3mm斑点状~幅1mmの脈状で分布し、区間全体も上下に比べ軟化する。	77.10	77.25	77.10~77.25m:全体に軟質化し、一部で軟弱な白色粘土が径2~3mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。	-
222	77.25	77.75	硬さ「C」の岩片が主体となるが、割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層をはさむことが多い。	77.25	77.75	硬さ「C」の岩片が主体となるが、割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層を挟むことが多い。	77.25	77.75	77.25~77.75m:割れ目に幅1mmの軟弱な白色粘土層を挟むことが多い。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
223	77.25	77.75	(コアの硬さ欄)Dランク	77.25	77.75	(コアの硬さ欄)Cランク	77.25	77.75	(コアの硬さ欄)Cランク	-
224	77.75	78.77	φ10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を混入するが、全体的には著しく軟化した硬さ「E」が主体。原岩組織は一部に残留するが、割れ目はほぼ消滅している。78.20~78.40m、78.70~78.77mにφ5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、10~30°と60~70°が消滅しかかった状態をわずかに残留している。粘土層は残留する岩片間に幅1~2mm白色軟質粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなものも、78.48m・63°、幅1mmのみである。	77.75	78.77	φ10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を混入するが、全体的には著しく軟化した硬さ「E」が主体。原岩組織は一部に残留するが、割れ目はほぼ消滅している。78.20~78.40m、78.70~78.77mにφ5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、10~30°と60~70°が消滅しかかった状態をわずかに残留している。粘土層は残留する岩片間に幅1~2mmの白色軟質粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなものも、78.48m・63°、幅1mmのみである。	77.75	78.77	77.75~78.77m:径10mm前後の硬さ「D」ないし「C」の岩片を含むが、全体には著しく軟質化する。原岩組織は一部に残留するが、割れ目はほぼ消滅する。78.20~78.40m、78.70~78.77mに径φ5~10mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片が残留し、傾斜10~30°と60~70°の消滅しかかった割れ目がわずかに残留する。残留する岩片間には幅1~2mmの軟弱な白色粘土が脈状に分布するが、直線的でシャープなものも、78.48mの傾斜63°で幅1mmの粘土層のみである。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-1 78.77~81.20m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
225	78.77	79.19	78.77	79.19	破砕部 H (最新活動面、79.19m) 上端32'、下端63'で、上端はやや湾曲、下端は直線的でシャープに連続。岩組織は明瞭であるが、割れ目は78.97m、54'以外は消滅する。丸ごと変質しており、全体が著しく軟質化する。79.15m以深に幅1~3mm約60'で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。 (色調欄)7.5YR6/2 灰褐	破砕部 H (最新活動面、79.19m) 上端32'、下端63'で、上端はやや湾曲、下端は直線的でシャープに連続。岩組織は明瞭であるが、割れ目は78.97m、54'以外は消滅する。丸ごと変質しており、全体が著しく軟質化する。79.15m以深に幅1~3mmの約60'で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。 やや軟質。灰褐~明青灰色を呈する。含まれる細粒部の直線性は乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・用種の統一(破砕部→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(やや、軟質化、軟弱⇒軟質、箇所) ・割記の修正(幅1~3mm約60'⇒幅1~3mmの約60')	●78.77~79.19m:破砕部 粘土質礫状部(H) 上端32'でやや湾曲して、下端63'で直線的にシャープに連続。岩組織は明瞭であるが、割れ目は78.97mの54'以外は消滅する。全体に変質しており、著しく軟質化する。79.15m以深に幅1~3mmの約60'で軟質な灰赤色粘土脈を3箇所伴う。灰褐~明青灰色を呈する。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
226	78.97	79.25	78.97	79.25	(色調欄)5B7/1 明青灰	・コアに合わせて色調を変更した	78.97	79.25	(色調欄)明青灰	-	
227	79.25	79.85	79.25	79.85	硬さC主体であるが、10~30'と60~70'が約10mm間隔で細かく分布し、コアはφ10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着するが、分布は少ない。	硬さC主体であるが、10~30'と60~70'が約10mm間隔で細かく分布し、コアはφ10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着するが、 分布は少ない。	・文章の適正化(「一部」が分布は少ないは同義であるため「分布は少ない」を削除した)	79.25	79.85	79.25~79.85m:傾斜10~30'と60~70'の割れ目が約10mm間隔で細かく分布し、径10mm程度の岩片に分離し易い。一部で幅0.5mmの白色粘土が付着する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
228	79.25	79.85	79.25	79.85	(コアの硬さ欄)0ランク (変質欄)3ランク	(コアの硬さ欄)0ランク (変質欄)2ランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクを0ランクに変更した ・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した	79.25	79.85	(コアの硬さ欄)0ランク (変質欄)2ランク	-
229	79.85	79.85	79.85	79.85	50'、幅2mmの軟弱な白色粘土脈。	50'、幅2mmの 軟質 な白色粘土脈。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	79.85	79.85	79.85m:傾斜50'で幅2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	-
230	79.85	80.08	79.85	80.08	幅1~3mmの軟弱な白色粘土脈が網状に分布し、全体が軟化著しい。	幅1~3mmの 軟質 な白色粘土脈が網状に分布し、全体が軟化著しい。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、軟質化)	79.85	80.08	79.85~80.08m:全体に著しく軟質化し、幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網状に分布する。	-
231	80.08	81.00	80.08	81.00	互いに交差する40~60'割れ目が多く、φ5~20mmの硬さCの岩片の集合となる。割れ目の一部は薄く砂状化したり、φ5mmの岩片に細片化する。一部の割れ目には白色~にぶい褐色の軟弱粘土脈をはさむ。	互いに交差する40~60'割れ目が多く、φ5~20mmの硬さCの岩片の集合となる。割れ目の一部は薄く砂状化したり、φ5mmの岩片に細片化する。一部の割れ目には白色~にぶい褐色の 軟質 粘土脈を挟む。	・表現の適正化(挟む⇒軟質)	80.08	81.00	80.08~81.00m:互いに交差する傾斜40~60'の割れ目が多く、径5~20mmの岩片からなる。割れ目の一部は薄く砂状化したり、径5mmの岩片に細片化する。一部の割れ目には白色~にぶい褐色の軟質な白色粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
232	80.08	80.81	80.08	80.81	(変質欄)3ランク	(変質欄)2ランク	・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した	80.08	80.81	(変質欄)2ランク	-
233	80.81	81.00	80.81	81.00	硬さDと上位よりも硬い岩片が主体。	硬さDと上位よりも 軟質 な岩片が主体。	・上位は硬さC主体で、上位より軟質になっているため、割記と判断して変更した	-	-	-	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
234	80.80	80.90	-	-	-	-	-	80.80	80.90	80.80~80.90m:径3~5mmの粘土化で白濁化した長石斑晶が多い。	-
235	81.00	81.20	81.00	81.20	φ10~20mmの硬さDの岩片と細砂状の砂質土の基質からなる。基質中に幅1~3mmの軟弱粘土脈が分布。	φ10~20mmの硬さDの岩片と 砂状に軟質化した 岩片からなる。基質中に幅1~3mmの 軟質 白色粘土脈が分布。	・砂質土ではないため記載を変更した ・粘土脈の色調を追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	81.00	81.20	81.00~81.20m:径10~20mmの硬さDの岩片と砂状に軟質化した岩片からなる。基質中に幅1~3mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	-

H24-D1-1 81.20~83.92m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事							
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 適正化した記事内容				
236	81.20	81.42	破砕帯	81.20	81.42	破砕帯	-用種の統一(破砕帯→破砕部)						
237	81.20	81.30	Hb 上端40°、下端35°で上端は一部湾曲し、下端は直線的でシャープに連続。φ1~2mmの石英粒とφ3~15mmの粘土化したGe岩片を多く含むやや硬質な粘土混じり礫状で、81.24~81.27mにはぶい黄褐色(10YR 7/4)、81.27~81.30mは淡黄褐色(10YR 8/3)を呈する。厚さ50~60mm。	81.20	81.30	Hb 粘土混じり礫状破砕部 上端40°、下端35°で上端は一部湾曲し、下端は直線的でシャープに連続。φ1~2mmの石英粒とφ3~15mmの粘土化したGe岩片を多く含むやや硬質な粘土混じり礫状で、81.20~81.27mにはぶい黄褐色(10YR 7/4)、81.27~81.30mは淡黄褐色(10YR 8/3)を呈する。厚さ50~60mm。 含まれる結核部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-岩片主体であるため破砕部内物質及び破砕度区分を変更した -表現の適正化(やや、硬質⇒硬質) -振記の修正(81.24⇒81.20、「色」の記載漏れ) -細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した						
238	81.30	81.30	Hc-1 (主せん断面) 厚さ2~4mm・35°の軟弱な灰赤色(2.5YR 5/2)粘土。	81.30	81.30	Hc-1 (最新活動面) 厚さ2~4mm・35°の軟弱な灰赤色(2.5YR 5/2)粘土。 連続性・直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-最新活動面という用語に統一 -細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した -表現の適正化(軟弱⇒軟質)	81.20	81.42				
239	81.30	81.42	Hb 上端35°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや湾曲して連続。灰赤~白色の幅1mmの軟質粘土を伴う。φ1~3mm石英粒とφ5~20mmの一部粘土化、一部硬さDのGe岩片を多く含む硬質粘土で、81.37m以深では堆積量が増加し、Hj様を呈する。粘土は締まっている。色調は、上端側10mmは淡赤褐色(2.5YR 7/3)、これ以外にはぶい黄褐色(10YR 7/3)である。厚さは120mm(コア長)。	81.30	81.42	Hb 粘土混じり礫状破砕部 上端35°、下端60°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや湾曲して連続。灰赤~白色の幅1mmの軟質粘土を伴う。φ1~3mm石英粒とφ5~20mmの一部粘土化、一部硬さDのGe岩片を多く含む粘土混じり礫状で、81.37m以深では堆積量が増加する。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は、上端側幅10mmは淡赤褐色(2.5YR 7/3)、これ以外にはぶい黄褐色(10YR 7/3)である。厚さは120mm(コア長)。	-岩片主体であるため破砕部内物質及び破砕度区分を変更した -表現の適正化(やや、軟弱⇒軟質) -振記の修正(「色」幅の記載漏れ) -硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した -厚さとコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した						
240	81.20	81.30	(破砕度区分)Hb	81.20	81.30	(破砕度区分)Hj	-上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	81.20	81.30	(破砕度区分)Hj			
241	81.30	81.42	(破砕度区分)Hb	81.30	81.42	(破砕度区分)Hj	-上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	81.30	81.42	(破砕度区分)Hj			
242	81.42	82.88	50~70°割れ目。低密着割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が悪く、途中で消滅するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土脈をはさむ。	81.42	82.88	50~70°割れ目。低密着割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が悪く、途中で消滅するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。	-表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	81.42	82.88	81.42~82.88m:傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する30~70°の割れ目が分布するが、この割れ目は連続性が悪く、途中で消滅するものが多い。割れ目の一部に幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。			
243	81.42	81.58	割れ目ぞいにマンガン鉱染うけ黒褐色化する。	81.42	81.58	割れ目沿いにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-表現の適正化(沿い、受け)	81.42	82.88	81.42~81.58m、82.27~82.88m:割れ目沿いにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。			-記事内容が同じであるため、82.27~82.88mの記事を含めて記載した化する。
244	82.27	82.88	割れ目ぞいにマンガン鉱染うけ黒褐色化する。	82.27	82.88	割れ目沿いにマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-表現の適正化(沿い、受け)	-	-	-			-上記でまとめ書きしたため記載しない
245	82.45	82.45	70°のせん断性割れ目で、交差する割れ目の一部を切る(変位量5mm右ズレ)。割れ目には幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土脈をはさむ。	82.45	82.45	70°のせん断性割れ目で、これにほぼ直交する割れ目は止まっている。は交差する割れ目の一部を切る(変位量5mm右ズレ)。割れ目には幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質) -変位基準とした割れ目は、一連の割れ目ではない(姿勢が異なる割れ目)ため変位について削除した -挟み込む粘土は不連続であるため幅を0~2mmに変更し、「不連続の岩盤」には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 -割れ目周辺の状況について追記した -追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	82.45	82.45	82.45m:傾斜70°の割れ目で、これにほぼ直交する割れ目は止まっている。割れ目には幅0.5~2mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
246	82.88	83.92	上位に比べ硬質で、割れ目も少なくなる。また、φ5~8mmと大型の粘土化により白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶もφ5~10mmと従来より大型化する。風化も弱くなり、また、粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。40~70°割れ目が主体で一部で割れ目ぞいにφ2~10mm程度で岩片が細片化するが、砂や粘土ははさまない。	82.88	83.92	上位に比べ硬質で、割れ目も少なくなる。また、φ5~8mmと大型の粘土化により白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶もφ5~10mmと従来より大型化する。風化も弱くなり、また、粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。40~70°割れ目が主体で一部で割れ目ぞいにφ2~10mm程度で岩片が細片化するが、砂や粘土ははさまない。	-表現の適正化(沿い、挟む)	82.88	83.92	82.88~83.92m:径5~8mmの大型の粘土化で白濁した長石斑晶が多く分布する。また、石英斑晶も径5~10mmで大型化する。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部の割れ目沿いに径2~10mm程度の岩片に細片化するが、砂や粘土は挟まない。			-記事種以外から読み取れる硬さ、割れ目の多寡、風化の情報は記載しない
247	82.88	87.14	(割れ目状態)hランク	82.88	87.14	(割れ目状態)hランク	-挟み込む粘土が少なかったため割れ目状態のランクをbランクに変更した	82.88	87.14	(割れ目状態)hランク			
248	82.88	83.92	(岩級区分)CL	82.88	83.92	(岩級区分)CM	-上記の変更に伴い、岩級を変更した	82.88	83.92	(岩級区分)CM			

H24-D1-1 83.92~88.35m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	上端深度	下端深度	記事	記事	記事を削除・変更・追記した理由	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					記事 適正化した記事内容		
249	83.92	87.14	上位より割れ目が多くなる。硬さは「C」で同じ。30~60°割れ目と、これらに斜交~直交する30~70°割れ目を主体とする。多数分布する低密度割れ目も同じ角度分布である。割れ目の一部では薄く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土層を挟む割れ目も少ない。φ3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でごく薄く黒褐色化し、コア表面の一部もマンガン鉱染によりφ2~5mmの斑点状に黒褐色化。	83.92	87.14	上位より割れ目が多くなる。硬さは「C」で同じ。30~60°割れ目と、これらに斜交~直交する30~70°割れ目を主体とする。多数分布する低密度割れ目も同じ角度分布である。割れ目の一部では薄く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土層を挟む割れ目も少ない。φ3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でごく薄く黒褐色化し、コア表面の一部もマンガン鉱染によりφ2~5mmの斑点状に黒褐色化。	・表現の適正化(挟む)	83.92	87.14	83.92~87.14m:傾斜30~60°の割れ目と、これらに斜交~直交する30~70°の割れ目を主体とする。同傾斜の低密度割れ目も多く分布する。割れ目の一部では薄く砂状化する部分があるが、粘土化部は分布せず。粘土層を挟む割れ目も少ない。径3~10mmの粘土化で白濁した長石斑晶が目立つ。割れ目の一部はマンガン鉱染でごく薄く黒褐色化し、コア表面の一部もマンガン鉱染により径2~5mmの斑点状に黒褐色化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多数の情報は記載しない
250	85.00	89.91	(破砕度区分)CL	85.00	89.91	(破砕度区分)-	・脱記を修正した。	85.00	89.91	(破砕度区分)-	
251	85.46	85.49	85.46m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な粘土層をはさむ。	85.46	85.49	85.46m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色~橙色粘土層を挟む。	・粘土層の色調を追記した ・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	85.46	85.49	85.46m・75°と85.49m・55°の割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白~橙色粘土層を挟む。	
252	85.53	85.53	65°、幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-		85.53	85.53	85.53m:傾斜65°で幅3~5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	
253	85.65	85.68	20°と50°割れ目が交差し、φ5~15mmの岩片に砕けているが、粘土は伴わない。	85.65	85.68	20°と50°割れ目が交差し、φ5~15mmの岩片に砕けているが、粘土は伴わない。	・表現の適正化(伴う)	85.65	85.68	85.65~85.68m:傾斜20°と50°の割れ目が交差し、径5~15mmの岩片状を呈する。粘土は伴わない。	
254	85.69	85.93	(コアの形状欄)Vランク	85.69	85.93	(コアの形状欄)IVランク	・層間比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	85.69	85.93	(コアの形状欄)IVランク	
255	86.04	86.43	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目それぞれに幅2~5mm程度砂状化する。	86.04	86.43	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目それぞれに幅2~5mm程度砂状化する。	・表現の適正化(扱い) ・2~5mmについて、幅であることを追記した	86.04	86.43	86.04m・40°、86.30m・60°、86.43m・55°の各割れ目扱いに幅2~5mm程度砂状化する。	
256	86.43	86.70	(コアの形状欄)Vランク	86.43	86.70	(コアの形状欄)IVランク	・層間比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	86.43	86.70	(コアの形状欄)IVランク	
257	87.14	88.35	φ5~40mmの硬さCの岩片と締った岩片側の砂質土の基質からなる角礫構造で、基質中には岩片間を縫うように幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が分布するが、連続性は長さ50mm未満と短い。岩片集合部には10~30°と60~80°の2系の割れ目系が残留する。	87.14	88.28	φ5~40mmの硬さCの岩片と砂状に軟質化した基質からなる角礫で、基質中には岩片間を縫うように幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が分布するが、連続性は長さ50mm未満と短い。岩片集合部には10~30°と60~80°の2系の割れ目系が残留する。	・コアに合わせて下端深度を変更した ・砂質土ではないため記載を変更した ・角礫は構造を示しておらず、ランダムに分布するため角礫状に変更した ・表現の適正化(連続性は短い⇒連続性は悪い、軟弱⇒軟質)	87.14	88.28	87.14~88.28m:径5~40mmの硬さ「C」の岩片と砂状に軟質化した基質からなる角礫状を呈し、基質中には岩片間を縫うように幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が分布するが、長さ50mm未満で連続性は悪い。岩片集合部には傾斜10~30°と60~80°の2系統の割れ目系が残留する。	
258	87.14	87.69	(風化欄)Aランク	87.14	87.69	(風化欄)δランク	・風化の程度がやや強いので風化のランクをδランクに変更した	87.14	87.69	(風化欄)δランク	
259	87.14	88.18	(割れ目状態欄)Jランク	87.14	88.18	(割れ目状態欄)Iランク	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをIランクに変更した	87.14	88.18	(割れ目状態欄)Iランク	
260	87.69	87.84	(コアの形状欄)Vランク	87.69	87.84	(コアの形状欄)IVランク	・層間比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	87.69	87.84	(コアの形状欄)IVランク	
261	87.69	88.09	(コアの硬さ欄)Eランク	87.69	88.09	(コアの硬さ欄)Cランク	・やや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	87.69	88.09	(コアの硬さ欄)Cランク	
262	88.72	88.84	硬質な中石として残留する。	87.69	87.84	硬質な中石として残留する。	・脱記の修正(88.72~88.84m⇒87.69~87.84m)	87.69	87.84	87.69~87.84m:硬質部が中石状に残留する。	
263	87.84	88.18	(コアの形状欄)Vランク	87.84	88.18	(コアの形状欄)Vランク	・層間比べて割れ目がやや少ないためコアの形状のランクをVランクに変更した	87.84	88.18	(コアの形状欄)Vランク	
264	88.00	88.35	基質部は殆んど分布しないが、岩片間はφ5mm前後の破砕岩片状を呈する。	88.00	88.35	基質部は殆んど分布しないが、岩片間はφ5mm前後の破砕岩片状を呈する。	・基質部が分布しないことから岩片状の原因は破砕ではなく、元の割れ目が発達した区間を掘削時に擾乱したものと判断して「破砕」を削除した ・表現の適正化(「岩片間」を削除)	88.00	88.35	88.00~88.35m:基質部は殆んど分布しないが、径5mm前後の岩片状を呈する。	
265	88.09	88.18	(コアの硬さ欄)Eランク	88.09	88.18	(コアの硬さ欄)Dランク	・コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	88.09	88.18	(コアの硬さ欄)Dランク	
266	88.18	88.28	(風化欄)Aランク	88.18	88.28	(風化欄)δランク	・風化の程度がやや強いので風化のランクをδランクに変更した	88.18	88.28	(風化欄)δランク	
267	88.28	88.35	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Jランク (風化欄)Aランク (岩砕区分)D	88.28	88.35	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Iランク (風化欄)Aランク (岩砕区分)CL	・コアに合わせてコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態、風化、岩砕の各ランクを変更した	88.28	88.35	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Iランク (風化欄)Aランク (岩砕区分)CL	

H24-D1-1 88.35~89.98m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	適正化した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
268	88.35	89.68	(変質欄)3ランク	88.35	89.68	(変質欄)2ランク	88.35	89.68	(変質欄)2ランク	
269	88.35	90.00	(風化欄)5ランク	88.35	90.00	(風化欄)7ランク	88.35	90.00	(風化欄)7ランク	
270	88.35	89.91	30~40°とこれに斜交~直交する60°割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈をはさむようになる。特に89.38m以深で分布が多い。	88.28	89.91	30~40°とこれに斜交~直交する60°割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟むようになる。特に、89.68m以深で分布が多い。	88.28	89.91	88.28~89.91m:傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜60°の割れ目が主体で、割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。特に、89.68m以深で粘土脈を多く含む。	
271	88.50	89.31	(割れ目状態欄)cランク	88.50	89.31	(割れ目状態欄)bランク	88.50	89.31	(割れ目状態欄)bランク	
272	88.72	89.22	(コアの形状欄)Vランク	88.72	89.22	(コアの形状欄)IVランク	88.72	89.22	(コアの形状欄)IVランク	
273	89.31	89.31	50°はせん断性割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を切っている(変位置2~5mm右ズレ)。	89.31	89.31	40°のはせん断性割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。切っ先の(変位置2~5mm右ズレ)割れ目に細粒部の挟在は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	89.31	89.31	89.31m:傾斜40°の割れ目で、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目に細粒部の挟在は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
274	89.38	89.73	(コアの硬さ欄)Dランク	89.38	89.73	(コアの硬さ欄)Cランク	89.38	89.73	(コアの硬さ欄)Cランク	
275	89.50	89.68	(割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)Vランク	89.50	89.68	(割れ目状態欄)bランク (コアの形状欄)IVランク	89.50	89.68	(割れ目状態欄)bランク (コアの形状欄)IVランク	
276	89.38	89.38	55°割れ目に幅0.5~2mmの明赤灰色(2.5YR 7/2)の軟質粘土をはさみ、下盤側は89.44mまで(実厚40mm)粘土化進み軟化。	89.38	89.38	55°割れ目に幅0.5~2mmの明赤灰色(2.5YR 7/2)の軟質粘土を挟み、下盤側は89.44mまで(実厚40mm)粘土化進み軟化。	89.38	89.38	89.38m:傾斜55°で幅0.5~2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟み、下盤側は89.44mまで実厚40mm程度で粘土化が進み軟化する。	
277			破砕帯 Hc-2(主せん断面・89.91m)	89.91	89.95	破砕帯 Hc-2(主せん断面・89.91m)			●89.91~89.95m:破砕部 89.91~89.93m:硬質粘土状部(Hb) 上端50°で直線的に、下端45°で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む。やや軟質。明赤灰色を呈する。幅12~15mm。 89.93~89.95m:粘土状部(Hc-1) 上端45°で波打って、下端45°で直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒をわずかに含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅2~5mm。	
278	89.91	89.95	上端50°、下端45°で、両者とも直線的でシャープに連続。径1~2mm石英粒と5mmの大半が粘土化したCa岩片を含む硬質粘土状で粘土は軟弱である。明赤灰色(2.5YR 7/2)を呈し、厚さ15~20mm。	89.91	89.93	Hb 硬質粘土状破砕部 上端50°で直線的に、下端45°で波打って連続。径5~10mmの岩片を30%程度含む明赤灰色粘土からなる。やや軟質で、細粒部の連続性・直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅12~15mm。	89.91	89.95	Hc-2を岩片の含有率からHbとHc-1に区分した。89.91~89.93m間は岩片を多く含むため硬質粘土状部に変更した。下盤境界、明、理軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。	
279				89.93	89.95	Hc-1 粘土状破砕部(最新活動面89.95m) 上端45°で波打って、下端45°で直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒をわずかに含む軟質の明赤灰色粘土からなる。連続性・直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。幅2~5mm。	89.93	89.95	89.93~89.95m間は岩片をわずかに含むため粘土状部に変更した。 最新活動面という用語に統一。 細粒部を併し、最も直線的であるため最新活動面を下盤境界に変更した。 上盤境界、明、理軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。	
280	89.91	89.93	(破砕度区分欄)Hc-2	89.91	89.93	(破砕度区分欄)Hb	89.91	89.93	(破砕度区分)Hb	
281	89.93	89.95	(破砕度区分欄)Hc-2	89.93	89.95	(破砕度区分欄)Hc-1	89.93	89.95	(破砕度区分)Hc-1	
282	89.95	89.98	硬さ「C」の中石である。	-	-	-	89.95	89.98	89.95~89.98m:硬さ「C」の中石である。	

H24-D1-1 89.98～90.26m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事		記事	記事	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
283	89.98	90.00	89.98	90.00	283	89.98	90.00	283		
		上端23'、下端25'で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒とφ5mmの大半が粘土化したGe岩片を含む。炭混り粘土状で、粘土は軟弱～やや締っている。灰白色(10YR 8/1)を呈し、厚さは15～18mm。			上端23'、下端25'で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mm石英粒とφ5mmの大半が粘土化したGe岩片を含む。炭混り粘土状で、粘土は軟弱～やや硬質である。灰白色(10YR 8/1)を呈し、厚さは15～18mm。			89.98～90.00m:上端23'、下端25'でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径5mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む炭混り粘土状を呈する。粘土は軟弱～やや硬質である。灰白色を呈し、幅15～18mmである。		
284	90.00	90.26	90.00	90.26	284	90.00	90.26	284		
		30～50'とこれに斜交～直交する50～60'割れ目からなり、これらの割れ目に囲まれφ5～50mmの硬さ「C」の岩片が多い。割れ目には粘土化部や粘土層ははさまない			30～50'とこれに斜交～直交する50～60'割れ目からなり、これらの割れ目に囲まれφ5～50mmの硬さ「C」の岩片が多い。割れ目には粘土化部や粘土層ははさまない			90.00～90.26m:傾斜30～50'とこれに斜交～直交する50～60'の割れ目が分布し、径5～50mmの硬さ「C」の岩片状を呈することが多い。		

H24-D1-1 90.26~90.72m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
285	90.26	90.84	破砕帯	90.26	90.84	破砕部	・用語の統一(破砕帯→破砕部)			●90.26~90.84m:破砕部 90.26~90.31m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50'で波打ち、下端70'で直線的にシャープに連続。径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土層が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅15~20mm。 90.31~90.37m:粘土質礫状部(Hb) 上端70'、下端70'でともにほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒とほぼ粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片を多く含む。やや軟質。上端には幅1~2mmの灰赤色軟質粘土層を伴う。灰白色主体で連続した灰赤色層。幅20~35mm。 90.37~90.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端70'、下端75'でともにほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5~30mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土層が分布する。にぶい黄褐色~灰白色を呈する。	
286	90.26	90.31	H 上端50'、下端70'で、上端は波打ち、下端は直線的でシャープに連続。径5~10mmの大半が粘土化したGp岩片と岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土層が分布。粘土混じり岩片状でにぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは15~20mm。	90.26	90.31	H 上端50'、下端70'で、上端は波打ち、下端は直線的でシャープに連続。径5~10mmの大半が粘土化したGp岩片と岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な白色粘土層が分布。粘土混じり岩片状でにぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは15~20mm。 やや軟質。含まれる細粒部は筋目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(混じり、軟弱⇒軟質) ・振記の修正(「色」の記載漏れ) ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
287	90.31	90.37	Hb 上端70'、下端70'で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mm石英粒とほぼ粘土化した径5~10mmのGp岩片を多く含む硬質粘土で粘土はやや締る。上端には幅1~2mmの灰赤色軟質粘土層を伴う。色調は灰白色(10YR 8/2)主体で連続した灰赤色(2.5YR 6/1)を伴う。厚さは20~35mm。	90.31	90.37	Hb 粘土質礫状破砕部 上端70'、下端70'で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mm石英粒とほぼ粘土化した径5~10mmGpの岩片を多く含む粘土質礫状でやや軟質である。上端には幅1~2mmの灰赤色軟質粘土層を伴う。色調は灰白色(10YR 8/2)主体で連続した灰赤色(2.5YR 6/1)を伴う。厚さは20~35mm。含まれる細粒部は筋目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(ほぼ、混じり、軟弱⇒軟質) ・粘土が混入しているため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
288	90.37	90.66	H 上端70'、下端75'で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5~30mmのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土層が分布する。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)~灰白色(7.5Y 7/1)を呈する。厚さは280mm(コア長)。	90.37	90.66	H 上端70'、下端75'で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5~30mmのGp岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な白~灰赤色粘土層が分布する。粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)~灰白色(7.5Y 7/1)を呈する。厚さは280mm(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(ほぼ、混じり、軟弱⇒軟質) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	90.26	90.84		
289	90.66	90.66	Hc-1(主せん断面) 75'、幅2mmで直線的でシャープに連続する。赤灰色(2.5YR 6/1)を呈する。軟質な粘土。	90.66	90.66	Hc-1(最新活動面) 75'、幅2mmで直線的でシャープに連続する。赤灰色(2.5YR 6/1)を呈する。軟質な粘土。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)				
290	90.66	90.72	Hb 上端75'、下端60'で、上端は直線的でシャープに、下端は波打ちながら連続。径1~2mm石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化したGp岩片を多く含む硬質粘土で、粘土はやや締る。灰白色(7.5Y 7/1)を呈し、厚さは20mmと膨縮する。	90.66	90.72	Hb 粘土質礫状部 上端75'、下端60'で、上端は直線的でシャープに、下端は波打ちながら連続。径1~2mm石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化したGp岩片を多く含む粘土質礫状で、軟質である。灰白色(7.5Y 7/1)を呈し、厚さは20mmと膨縮する。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・基質が軟質で岩片が基質より浮いているため硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
291	90.72	90.84	H 上端60'、下端50'で、上端は波打って、下端はほぼ直線的でシャープに連続。径5~20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化したGp岩片と径2~3mmの石英、長石粒、Gp細岩片を含む基質からなる粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは170mm(コア長)。	90.72	90.84	H 上端60'、下端50'で、上端は波打って、下端はほぼ直線的でシャープに連続。径5~20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化したGp岩片と径2~3mmの石英、長石粒、Gp細岩片を含む基質からなる粘土混じり岩片状で、にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。厚さは170mm(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・表現の適正化(ほぼ、混じり) ・振記の修正(「色」の記載漏れ) ・厚さとしてコア長を記載したものは、真幅ではないため削除した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
292	90.26	90.72	(色調欄)灰	90.26	90.72	(色調欄)N8/灰白	・コアに合わせて色調を変更した	90.26	90.72	(色調欄)灰白	

H24-D1-1 90.84~92.15m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由			報告書柱状図記事							
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						記事					
293	90.84	91.26	60~70° 割れ目が主体で実幅20~40mm間隔で平行に分布。これらの割れ目に斜交~直交する40~50° 割れ目も多い。前者はせん断割れ目で後者を切っている(実径2~5mm左ズレ)。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの白色軟弱粘土をはさむ。	90.84	91.26	60~70° 割れ目が主体で実幅20~40mm間隔で平行に分布。これらの割れ目に斜交~直交する40~50° 割れ目も多い。91.21m付近では、前者はせん断性割れ目で後者を止めている場合と横断する場合が見られる。後者はせん断性割れ目とほぼ平行に分布し、せん断性割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの白色軟弱粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	90.84	91.26	・表現の適正化(実幅、挟む、軟弱⇒軟質) ・91.21m付近では、横断する割れ目と止まっている割れ目の両方が見られるため切っている「を」を止めている場合と横断する場合が見られる「に」に変更し、実径量についての記載を削除した。 ・割れ目周辺の状況について追記した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した。	90.84	91.26	90.84~91.26m: 傾斜60~70° の割れ目が20~40mm間隔で平行に分布する。これらの割れ目に斜交~直交する傾斜40~50° の割れ目も多い。91.21m付近では、前者は後者を止めている場合と横断する場合が見られる。割れ目の一部には断片的に幅0.5mmの軟質な白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	-	-
294	90.84	91.26	(実質層)3ランク (岩級区分)D	90.84	91.26	(実質層)2ランク (岩級区分)CL	90.84	91.26	・実質の程度がやや弱いため実質のランクを2ランクに変更した。 ・CL級とD級が分布するが、CL級の方が区間長が長いのでCL級に変更した。	90.84	91.26	(実質層)2ランク (岩級区分)CL	-	-	-	-
295	90.84	91.52		90.84	91.52		90.84	91.52		90.84	91.52		-	-	-	-
296	91.26	91.52	破砕帯	91.26	91.52	破砕部	91.26	91.52	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部)	91.26	91.52	破砕部	-	-	-	-
297	91.26	91.31	Hb 上端60°、下端63°で、上端は直線的でシャープに、下端は湾曲して連続。φ1~3mm石英、φ5~10mmGp粘土化岩片を含む硬質粘土で、硬の境界は不明瞭。粘土は締っている。にぶい黄褐色(10YR7/4)を呈し、厚さ20~40mm。	91.26	91.31	Hj 粘土混じり塊状破砕部 上端60°、下端63°で、上端は直線的でシャープに、下端は湾曲して連続。φ1~3mm石英、φ5~10mmGp粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質。挟むする細粒部はせん断性連続性不規則。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。にぶい黄褐色(10YR7/4)を呈し、厚さ20~40mm。	91.26	91.31	・岩片主体であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した。 ・粘土が塊状に分布することについて追記した。 ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について修正・追記した。 ・傾斜の修正(「色」の記載漏れ)	91.26	91.31	●91.26~91.52m: 破砕部 91.26~91.31m: 粘土混じり塊状部(H) 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。 91.31~91.33m: 塊状粘土状部(Ha-2) 上端63°で湾曲し、下端63°で湾曲して連続。径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質、赤灰色を呈する。幅8~15mmと膨縮する。 91.33~91.52m: 粘土混じり(一部粘土質)岩片状部(H) 上端63°で湾曲し、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5~15mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄褐色~明赤灰色を呈する。	-	-	-	-
298	91.31	91.33	Hc-1 (せん断面・91.31m) 上端63°、下端63°で、上端は湾曲し、下端は湾曲して連続。φ1~2mm石英粒とφ5~20mmの粘土化したGp岩片を含む硬質粘土で、粘土はやや粘る。赤灰色(2.5YR 6/1)を呈する。厚さ8~15mmと膨縮する。	91.31	91.33	Hc-2 (最新活動面・91.31m) (最も直線的) 上端63°、下端63°で、上端は湾曲し、下端は湾曲して連続。φ1~2mm石英粒とφ5~20mmの粘土化したGp岩片を含む軟質な塊状粘土。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。赤灰色(2.5YR 6/1)を呈する。厚さ8~15mmと膨縮する。	91.31	91.33	・硬を含むため破砕度区分を変更した。 ・最新活動面という用語に統一。 ・最新活動面の直線性を追記した。 ・表現の適正化(混じり) ・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について修正・追記した。	91.26	91.52	●91.26~91.52m: 破砕部 91.26~91.31m: 粘土混じり塊状部(H) 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1~3mmの石英、径5~10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅20~40mm。 91.31~91.33m: 塊状粘土状部(Ha-2) 上端63°で湾曲し、下端63°で湾曲して連続。径1~2mmの石英粒と径5~20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質、赤灰色を呈する。幅8~15mmと膨縮する。 91.33~91.52m: 粘土混じり(一部粘土質)岩片状部(H) 上端63°で湾曲し、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5~15mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白~灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄褐色~明赤灰色を呈する。	-	-	-	-
299	91.33	91.52	Hj 上端63°、下端30°で、上端は湾曲して、下端は不明瞭に連続。φ5~15mmの粘土化した硬質なGp岩片からなり、岩片間には白色~灰赤色軟質粘土が分布する。粘土混じり(一部粘土質)岩片状でにぶい黄褐色~明赤灰色(2.5YR 7/1)を呈する。厚さは190mm(コア長)。	91.33	91.52	Hj 上端63°、下端30°で、上端は湾曲して、下端は不明瞭に連続。φ5~15mmの粘土化した硬質なGp岩片からなり、岩片間には白色~灰赤色軟質粘土が分布する。粘土混じり(一部粘土質)岩片状でにぶい黄褐色~明赤灰色(2.5YR 7/1)を呈する。厚さは190mm(コア長)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	91.33	91.52	・表現の適正化(混じり)を呈する。軟弱⇒軟質) ・傾斜の修正(「色」の記載漏れ) ・厚さとしてコア長を記載したものは、裏層ではないため削除した。 ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。	91.26	91.52	●91.26~92.00m: 硬さ「D」のない「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、φ5~10mmに砕けている。	-	-	-	-
300	91.26	91.31	(破砕度区分)Hb	91.26	91.31	(破砕度区分)Hj	91.26	91.31	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した。	91.26	91.31	(破砕度区分)Hj	-	-	-	-
301	91.31	91.33	(破砕度区分)Hc-1	91.31	91.33	(破砕度区分)Hc-2	91.31	91.33	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した。	91.31	91.33	(破砕度区分)Hc-2	-	-	-	-
302	91.26	91.52	(割れ目状態)Dランク	91.26	91.52	(割れ目状態)Cランク	91.26	91.52	・割れ目が把握できるため割れ目状態のランクをCランクに変更した。	91.26	91.52	(割れ目状態)Cランク	-	-	-	-
303	91.52	92.00	硬さのないφ10~30mm岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mはφ5~10mmに砕けている。	91.52	92.00	硬さのない。Cのφ10~30mm岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、φ5~10mmに砕けている。	91.52	92.00	・人為的なコアの擾乱部について追記した。 ・傾斜の修正(DのないC⇒Dないし、C、軟弱⇒軟質)	91.52	92.00	91.52~92.00m: 硬さ「D」のない「C」の径10~30mmの岩片と岩片間の風化砂の基質からなる。傾斜20~30°の割れ目が主体であるが、殆んどが消滅しかかっている。基質の一部に幅1~3mmの軟質な白色粘土が脈状に分布する。91.94~92.00mは掘削時の攪乱により、径5~10mmに砕けている。	-	-	-	-
304	92.00	92.15	92.00~92.15m間は、上位より更に岩片は細片化し、φ5~10mm主体で、かつ、岩片自身も粘土化する。岩片間を幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。	92.00	92.15	92.00~92.15m間は、上位より更に岩片は細片化し、φ5~10mm主体で、かつ、岩片自身も粘土化する。岩片間を幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。	92.00	92.15	・表現の適正化(混じり、軟弱⇒軟質)	92.00	92.15	92.00~92.15m: 上位より岩片は細片化し、径5~10mmの岩片が主体で粘土化することが多い。岩片間を幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が網目状に分布し、粘土混じり岩片状を呈する。	-	-	-	-
305	92.15	-	92.15m以深では更に粘土化が進み、5°、幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体として、色調はにぶい黄褐色が主体である。	92.15	-	92.15m以深では更に粘土化が進み、5°、幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体として、色調はにぶい黄褐色が主体である。	92.15	-	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	92.15	-	92.15m以深では更に粘土化が進み、傾斜5°で幅40mmで軟質な硬質粘土状を呈する。全体として、色調はにぶい黄褐色が主体である。	-	-	-	-

H24-D1-1 92.19~93.43m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
306	92.19	92.94	92.38~92.66mを除き、岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土~粘土層を伴っている。	92.19	92.94	92.48~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化している。幅1~2mmの軟弱な白色粘土~粘土層を伴っている。	92.38~92.48m間も割れ目が消滅し、著しく軟質化しているため上端深度を変更した。 ・表現の適正化(原岩組織、ほぼ、軟質化、軟弱⇒軟質)	92.19	92.94	92.19~92.94m:92.48~92.66mを除き、原岩組織と割れ目はほぼ消滅し、著しく軟質化する。幅1~2mmの軟弱な白色粘土層を伴う。	-
307	92.19	93.12	(実質欄)3ランク	92.19	93.12	(実質欄)2ランク	・実質の程度がやや弱いため実質のランクを2ランクに変更した	92.19	93.12	(実質欄)2ランク	-
308	93.12	93.43	(割れ目状態欄)4ランク	93.12	93.43	(割れ目状態欄)6ランク	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクを6ランクに変更した	93.12	93.43	(割れ目状態欄)6ランク	-
309	92.38	92.66	30~40' とこれに斜交する60~70' 割れ目の一部が残留し、その一部に軟弱な白色粘土をはさむ。	92.48	92.66	30~40' とこれに斜交する60~70' 割れ目の一部が残留し、その一部に軟弱な白色粘土を挟む。	・92.38~92.48m間も割れ目が消滅し、著しく軟質化しているため上端深度を変更した。 ・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	92.48	92.66	92.48~92.66m:傾斜30~40' とこれに斜交する60~70' の割れ目の一部が残留し、その一部に軟弱な白色粘土を挟む。	-
310	92.31	92.41	粘土量が増大している。	92.31	92.41	粘土量が増大している。 コア掘削時の供回りによる攪乱部を含む。	・粘土の原因として人為的な攪乱部を含んでいるため追記した	92.31	92.41	92.31~92.41m:コア掘削時の供回りによる攪乱で粘土化する。	-
311	92.94	93.12	硬さCの岩片が主体で、10~20' とこれに斜交する40~60' の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの白色軟弱粘土をはさむ。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。	92.94	93.12	硬さCの岩片が主体で、10~20' とこれに斜交する40~60' の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの白色軟弱粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。	・表現の適正化(挟む、軟弱⇒軟質)	92.94	93.12	92.94~93.12m:傾斜10~20' とこれに斜交する40~60' の割れ目が分布する。割れ目の一部に幅0.5mmの軟弱な白色粘土を挟む。また、一部の割れ目は薄く砂状化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
312	93.12	93.24	破砕帯	93.12	93.24	破砕部	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部)				
313	93.12	93.20	Hb 上端65'、下端30' で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~3mm石英粒、粘土化したφ5~10mmのGp岩片を多く含む。やや硬質。厚さ50~100mmと膨縮する。	93.12	93.20	Hb 粘土混じり硬状破砕部 上端65'、下端30' で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~3mm石英粒、粘土化したφ5~10mmのGp岩片が主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。にぶい黄褐色(10YR7/3)を呈する。厚さ50~100mmと膨縮する。やや軟質~やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・岩片主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・岩片間の粘土の挟みについて追記した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
314	93.20	93.20	Hc-1 (主せん断面) 30'・幅2mmでほぼ直線的に連続する。灰赤色(2.5YR 6/2)を呈する軟弱な粘土。	93.20	93.20	Hc-1 (最新活動面) 30'・幅2mmでほぼ直線的に連続する。灰赤色(2.5YR 6/2)を呈するやや軟弱な粘土。	・最新活動面という用語に統一 ・表現の適正化(ほぼ、軟弱⇒軟質) ・やや粘土化の程度が弱いため硬軟を変更した	93.12	93.24	●93.12~93.24m:破砕部 93.12~93.20m:粘土混じり硬状部(Hb) 上端65'、下端30' でとも直線的でシャープに連続。径1~3mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片主体で岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅50~100mmと膨縮する。 93.20m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30' で幅2mmのやや軟弱な灰赤色粘土からなる。ほぼ直線的に連続する。 93.20~93.24m:粘土混じり硬状部(Hb) 上端30'、下端65' でとも直線的に連続する。径1~2mmの石英粒、粘土化した径5~10mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。やや軟質~やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅30mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
315	93.20	93.24	Hb 上端30'、下端55' で、両者とも直線的に連続する。φ1~2mm石英粒、粘土化したφ5~10mmのGp岩片を多く含む。やや硬質。厚さ30mm。	93.20	93.24	Hb 粘土混じり硬状破砕部 上端30'、下端55' で、両者とも直線的に連続する。φ1~2mm石英粒、粘土化したφ5~10mmのGp岩片からなり、岩片間に幅1mmの白色粘土を挟む。にぶい黄褐色(10YR 7/3)を呈する。厚さ30mm。 やや軟質~やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・岩片主体であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・岩片間の粘土の挟みについて追記した ・表現の統一(締った⇒硬質) ・表現の適正化(やや) ・コアに合わせて硬軟を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
316	93.20	93.24	(破砕度区分欄)Hb	93.20	93.24	(破砕度区分欄)Hb	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	93.20	93.24	(破砕度区分)Hb	-
317	93.24	93.43	硬さCないしDの岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟質化している。基質中には幅1~2mmの白色軟弱粘土層が多く分布する。	93.24	93.43	硬さCないしDの岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟質化している。基質中には幅1~2mmの白色軟弱粘土層が多く分布する。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質、軟質化)	93.24	93.43	93.24~93.43m:硬さCないしDの岩片が残留するが、岩片間の基質は著しく軟質化する。基質中には幅1~2mmの軟弱な白色粘土層が多く分布する。	-
318	92.41	92.43	一部は軟弱な白色粘土化部。	93.41	93.43	一部は軟弱な白色粘土化部。	・崩記の修正(92.41~92.43⇒93.41~93.43) ・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	93.41	93.43	93.41~93.43m:一部は軟弱な白色粘土化部となる。	-